

第四号

漕魂



1979

長崎大学医学部漕艇部



A-50



この冬 思いっきり
からだは冬眠させないで

冬だからといってあたたかい部屋に閉じこもってばかりいては…。寒い冬こそ、戸外で積極的にからだを動かして、さわやかな汗を流してみませんか。でも力いっぱい運動したあとは、からだへのねぎらいもお忘れなく。

● 肉体疲労時のビタミンB₁補給にはアリナミンAをおすすめします。アリナミンAの主成分フルスルチアミンは、吸収がよく、筋肉や神経にゆきわたって、すぐれた効果を発揮します。

肉体疲労時の^{ビタミン}VB₁補給に
アリナミン[®]A

雪の上をマイペース(ランクラウフ)にチャレンジする——柴俊夫

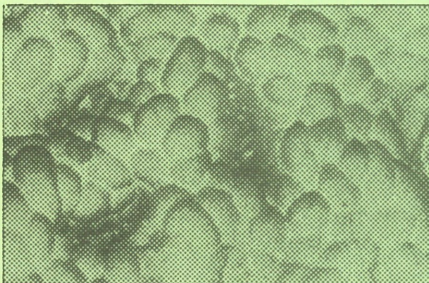
【効能】 肉体疲労時のビタミンB₁補給、神経痛・腰痛・筋肉痛・肩こりの緩和、カケ、病中病後のビタミンB₁補給。☆アリナミンA25ミリ錠、ほかに5ミリ錠。
☆説明書をよく読んで正しくお使いください。☆くわしくは医師、薬剤師、薬局、薬店でご相談を。武田薬品工業株式会社 〒541 大阪市東区道修町2-27

基質蛋白保護作用・抗ペプシン作用

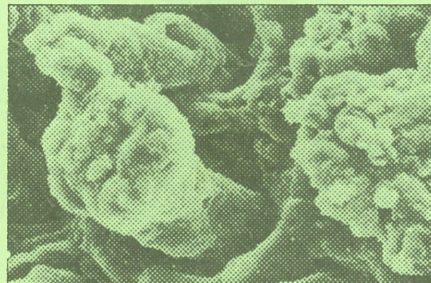
消化性潰瘍治療剤
アルサルミン[®] 顆粒錠

アルサルミンは胃液ペプシンの蛋白分解活性を直接抑えるとともに潰瘍底部や白苔および粘膜エロジオン部分の基質蛋白とも化学的に結合して潰瘍面や炎症部を保護し、潰瘍やピランの治癒をすみやかに促進します。

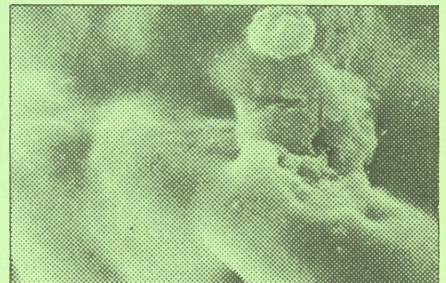
〈基質蛋白保護作用—走査電子顕微鏡による追跡〉



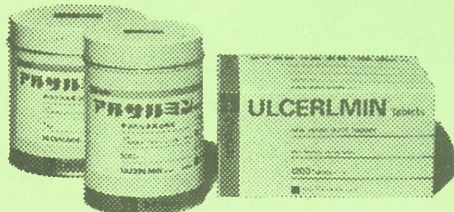
対照例 十二指腸の正常粘膜像強拡大(ラット)



塩酸逆流による表層エロジオン部



アルサルミン投与例 アルサルミン結合部



【適応症】

胃潰瘍・十二指腸潰瘍

【包装】

顆粒：500g、1kg、5kg、1g×1200包、1g×3600包

錠：1200錠

■使用上の注意は添付文書をご覧ください。

薬価基準収載

peptic ulcer therapy ulcermin

中外製薬株式会社 東京都千代田区岩本町1-10-6

CUL 8154



昭和53年12月 追出しコンパ



医薬品・医療品の総合商社
農薬・食品
各種臨床検査

(〒854)

長崎県諫早市東小路町179

(株)宮崎温仙堂商店

取締役社長 宮崎 六夫

電話 09572 (2) 3350 (代表)

—事業所—

諫早・長崎・浦上・島原・佐世保・大村

五島・天草・佐賀・武雄・熊本・松橋

常に健康への願いをこめて

医薬品卸問屋

伊東薬品株式会社

本 社 長崎市桶屋町45番地1

〒850 電話 代表(0958)27-2766

営業所 長崎・佐世保・諫 早・長崎北

The Race

The crew need reminding that, when starting the race, one does not want to try to do too much.

Each man should just make sure of the first three four strokes and get the boat away nicely.

Trying to do too much is very apt to bring in rush and effort, and one man doing this will spoil the whole crew.

Let each man concentrate on being always ready for a spurt and be sure he strikes guicker and harder, even if shorter, when called up on.

If he wins, remember the feeling of the crew he has beaten, and if he loses, be glad he has done his best.

目次

希望	部長 高久 功	一	太陽がくれた季節	学2 山近史郎	一二
操 舵	木谷郁博	一	会 話	学1 永俊郎	一三
田中先輩からの手紙	田中精一	二	抽象なのだ	教2 今里雅之	一四
今年の初夢?	神田源太	三	諏訪神社の鳩とガチョウ	学1 岡田代吉	一四
先輩方の近況報告		三	無 題	学1 中崎隆行	一五
卒業生紹介		五	雑 感	学1 永見耕一	一五
漕艇 回想	小倉 猛	六	無 題	学1 永山雄二	一六
愚 痴	小村三代治	七	We are No.1 この美しい響き	学1 松尾圭一	一六
五年間を振り返って	成松元治	八	無 題	教2 小林誠博	一六
オーイ コックスさん!!	水谷明正	八	ボート部との関係について	教2 日高 真	一七
海	前原洋二	九	一年を振り返って	教2 平野友久	一八
ヨット	村山 晋	九	想 い 出	教2 松吉正隆	一八
今振り返れば	谷川宗生	一〇	長崎医学専門学校、長崎医科大学、長崎大学医学部 における漕艇部(端艇部)の歩み	学4 井上健一郎	一九
部員の最も多い年	難波裕幸	一〇			
ボート合宿の歌	倉富彰秀	一一	昭和五十三年度会計報告		二三

新艇購入について……………	二四
長崎大学全学漕艇部と医学部漕艇部の子々川艇庫 使用に関する同意書……………	二四
昭和五十三年度 大会成績……………	二五
長崎大学医学部漕艇部OB会発足にあたって……………	三三
長崎大学医学部漕艇部関係者名簿……………	三四
長崎大学医学部漕艇部OB名簿……………	三六
長崎大学医学部漕艇部現役部員名簿……………	四〇
トピックス……………	四三
編集後記……………	四四

希 望

部長 高 久 功

長崎大学医学部ボート部は、ようやく基礎も固まり、若い部員諸君が熱心に練習に励み、また、部の将来の為に努力されている姿を見る事は楽しいかぎりである。

懸案であつた先輩との集いについても具体的に決まり、また、先輩諸氏の御厚意により、新艇購入も実現し、心から御礼を申し上げます。

ここで問題になるのはボートの艇庫の事である。大学本部のボート部と医学部ボート部の関係上、艇庫も手狭で、艇の格納も思うに任せない点があるようで、当分の間はお互いにゆずり合つて何とかやれそうだが、長期的に見ると何等かの対策を考へておこななくてはならないようである。

将来の発展を指向し、これを実現させる為にも、出来るだけ良い成績をあげて、伝統ある長崎大学医学部ボート部の名を輝してもらいたいと思うのは、私のみではないだろう。

操 舵

木 谷 郁 博

御苦労中の漕魂飛行 有難う。

これぞファシズムなりの医学部の毎日、これからの運営を考える時、次の二題目に頭が痛い。何処の医大も同様の悩みではあろうが。

- 一、絶対的経費不足の捻出法
- 二、絶望的時間不足への対策

長大医学部が第一回の琵琶湖進出は昭和二十三年七月二十四・五日で、小雨を降る瀬田川唐橋下、京大艇庫前に惨敗の肩を落してから早や二十八年、諸君に再度優勝の夢を賭ける日が巡つて来て、壮途を見送る長崎駅のホームに一人感無量ではあつたが、三十万円を懸けてボートまで陸送して、如何に諸君が張切つてみても、頭書の二条件が充たされぬ限り、医学部である限り、時代の変化には無関係に「優勝」からは凡そ縁遠いことになる。五月に始まり十一月迄の半歳間に大略六大会出場は、平均毎月一回のレース、経費と時間の無理捻出に苦労がついて廻る許りの様でもある。

国家試験の成績と謂う長大に於ける重庄も亦、今日の諸君から何彼につけて少ない練習時間の制約へとつながつて来るに違いないし、上級学年など、艇庫迄すら出向けなくなる。否あらゆるスポーツからは凡そ縁遠くさせられよう。特にエリート・スポーツたる金喰いのボート等、金づまり不況の今日、誰からも真先に敬遠されよう。私立医大の憶いをすれば諸君は大いに親孝行をした訳であるから、今迄以上にそちらの出費をお願いして見て貰い度いし、私等の時は先輩は戦死・行方不明等で、全部両親のスネをかじつた。

高久部長教授が何と云われるか、実力も此処迄になると、諸君等の手で、女子漕艇同好会なるものを拵えてみては如何。大してあてにはならないが、銀行・会社・短大・高校等、彼女等の憧れを少々利用させて頂く。

会社ぐるみの契約か、クラブ活動費として頂くか、諸君が彼女等を指導して、手ほどき次第では面白いレースのチャンスも持つよう。

現今の長崎スポーツには、幸か不幸か、女子のボート一般の部が皆無ではないか。単なる遊びであつた為に、かつての私共の頃、女

の子と不必要に仲良くなつて身の破滅を招いた学生も数多くあったが、これも一考である。あの頃医学部グラウンド使用に問題があった。午後四時以降は学生が使用禁止を喰う。医学部事務に掛合つた結果ある民間企業に野球の練習用に賃借提供していた訳で、曰く、グラウンド整備費だとのこと。然し、その後バックネットが立ったり、スタンドが整備されたりした事実もない為、グレーのユニホーム姿のヨソの人が、大きな顔で毎日カチャカチャとスパイクをひけらかして大学をのし歩いていた。その金が何処で何に使われたかは、学生の我々は今以て知る由もないが、学生達は自分達のグラウンドを使えなかつた口惜しさを憶い出す。大学総合レースを見せて貰つたが、大いに騒いだ割には出場費が安い様に見受けられる。オールその他の破損修理費に金がかかるのもうちよつと頂かないと困るのではないか。OB戦の御案内も頂いたが、誰一人として参加者がなかつたのも、無関心と云うよりも、何彼と学生にタカラレルのではないかと謂う心配と、多忙なハードスケジュールに追われる開業医のせいでと思われるが、この辺のPR不足の責任を痛感している次第。OBの名簿にしても、一括したプリントも出廻つてなくて、毎年各自でドサ巡りして寄附を仰いだらしく、一環性と言うか何か頼りないので、この処の整理も大切。

学生の善意の熱には、すかさず応えてやりたいが、何れにしても御手許不如意は怖い。今の様だと医学部対抗戦だけでよろしい？

前略 私達が、部誌「漕魂」創刊号を発行后、後輩諸君にひきつが

田 中 精 一

れ、内容も充実したものになっているようだ。本当に嬉しく思います。毎日の仕事に忙殺されている私にとって、部誌はこころよい安らぎを与えています。感謝しています。

夏の熱い照り返しの中のバドミントン、冬の寒いグラウンドでの陸トレ、これら苦しい練習の中で部誌の発行は楽しいものだ。勿論部誌を作る為の漕艇部活動であつてはいけないと思います。部誌製作に限らず、今度の新艇購入に関しても、部員の中の熱心な一人・二人が精出してやつても出来はしない。部員全員が協力して、分担して行動していただきたい。また、諸先輩の援助があつてはじめてできる事である事を常々心しておくように。熱心に精出して行動している人達を横目で見、酒・マージャンにうつつをぬかしている人も居たら、その人達は十分に反省するように……。

先日、私の近況報告を書けとの依頼がありました。消火器外科、医療練士研修生としてまる二年経ちますが、私の一日は、毎朝七時半の病棟回診で始まります。当センター外科は、臓器別に、肝・門脈、脾・胆道、食道、胃、大腸の五つのグループに分かれ、一グループが教授以下九〜十人で構成されています。

回診後、火・木・土は手術、月・水・金は受けもち患者のX線、内視鏡を初めとしてその他の諸検査に回ります。受けもち患者数は大体三十五名程です。午後三時半にもう一度回診し終る頃はもう五時すぎです。病棟の窓からは新宿の高層ビル、ネオンが輝いているのがみえます。五時から、各種検査所見読影会、オーダーの再チェック、重症患者の処置、術后患者のICVでの処置等を行ない、全てが終るのはもう夜の十一〜十二時すぎです。数時間の睡眠をとつて、明朝はまた繰り返し。大変なように見えますが慣れれば大した

事はありません。ポート部諸君の中にフアイトのある人がいたら、消化器病センターにいらっしゃい。

こういった所が私の近況です。では元気に頑張つて下さい。新艇購入に就いてはできるだけだけの援助をさせていただきます。

「今年の初夢？」

神 田 源 太

『去年、ヤクルトも念願の初優勝をはたしたことだし、今年あたりは、長大ポート部も……してもいいのではなからうか』というのが私の初夢です。しかし、長大医学部ポート部にとって不利なことは、シーズン中に大切な学期テストがあることで、これは部長の高久先生にお願いするか？他の方法を考えて、この問題を克服するかである。その一つの方法論として、かなり危険で一シーズン棒にふるかもしれないが、九山大会を捨てて西医体↓(全医体)という考え方があってもいいと思う。

今まで、我々(少くとも我々の時代は)は、大会前に大きな合宿をし、その時々々の試合を目指し練習し、大会へ望んだ。しかし、九山を捨てるということは、つまり、はつきりと、練習、合宿を一年間、一年半計画でたてていくことである。具体的には、

一、四月(十一、四月)基礎体力づくり

五、六月 ポートの基礎技術マスター及びスタミナづくり

八月 西医体及び高度のテックニククマスターの夏の夏季合宿

九月十月 宮城杯等、次の年度の為の試合練習(交流試合を含む)等又、練習内容、種類等も長期計画なのでバラエティなものになってもいいと思う。(今まで、できなかつたことも加え)それに、同じく

ールのメンバーで、一年もそれ以上続けて漕ぐことも……。しかし一番大切なことは、一つのことを完成するまで集中的にやることだと思ふ。しかし、これは私個人の一つの方法論であり、人それぞれ価値感や考え方の違いもあり今の部の方針もあることだし、それでオフシーズン中、部員全員でミーティングをし、今年のシーズンをどうやって向えるか充分話し合つてほしい。そして、多くの考えの者が、一つの目標に向かってガンバツてほしい。四月に入つて来るであろう新部員が、ポート部に入つてほんとうによかつたと思うように……

当り前のことをくどくど書いてしまったようです。私もだいぶん年をとってしまったのか？OBのたわごとは(私もふくめ)雑音として聞き流し、君達の思うようなポート部にして下さい。それが君達の特権であり、又責任なのです。

先輩方の近況報告

朝戸須江夫先生

四月末までは甲府に、五月からは東京女子医大にお戻りになるそうです。住所は五月から千葉県八千代市に。女四才半、男二才半、女十一カ月の三人のお子さんがいらっしゃいます。

石川 治先生

しばらく高知にいらっしゃるそうです。中村の病院は長大のジツツだから、誰か行くような事があれば高知まで顔見せに来て下さいとのこと。結婚はまだですと笑いながらおっしゃっていました。

内田隆寿先生

現在、山口県防府市で堤先生のお隣に住んでいらつしゃいます。ボート部とはしばらく疎遠になっていましたが、再び、OBの一員に加わって下さるとの事。大変嬉しい事です。

川口昭男先生

十月からは佐世保中央病院に半年の予定で行かれるそうです。自宅におうかがいした日には、二人のお子さんの為に、お雛様がきれいに飾ってありました。

神田源太先生

「五島での冬休み？を楽しんでいます。ゴルフを始めましたが、タマがクラブになかなか当ってくれません。三月には大学へ戻る予定です。」

瀬戸信二先生

現在長大附属病院第3内科に勤務しておられます。今年の2月、学4の井上健一郎氏のお姉さんと晴れてご結婚なされました。ボート部一同前途のご多幸をお祈り致します。

早田 篤先生

六月には長崎にいらつしゃるとのことです。また、現在のボート部の活動について率直な意見をいただきました。今後の活動に役立たいと思っております。

田川 泰先生

御仕事が忙しく、何度もお電話してようやくお話を聞いたところしばらく嬉野から動く予定はない、とのことです。十月の男のお子さんがいらつしゃいます。

田中精一先生

五月には、同じ新宿区内で引越なさるそうです。相変わらず忙しいようで、家に帰るのは週に一・二度ということ。部員には、何をするにしても皆で協力してやらねばいけない、とお叱りを受けました。

堤 健二先生

山口中央病院の脳外科には、ドクターが二人しかおらず、大変忙しいとおっしゃっていました。五月には長崎に戻れるとのことでした。

富海五郎先生

四月から松山精神病院にお勤めになるそうです。また、三月下旬に松山市内に移られる予定とのこと。四月十日頃、長崎にいらつしゃるそうで、ボート部の練習が見たいとおっしゃっていました。

長西 靖先生

現在、広島大学の研究生で、魚の耳の研究をなさっているそうです。長大生協から長大生協に移られたとのこと。男の子が三人いるとおっしゃっていました。

中野文耕先生

現在、小倉にいらっしゃいます。一日三箱吸っていたタバコを止めて、車の免許を四ヶ月半、二十三万円かけて取ったそうです。男の子が二人いる、とのことでした。

丹羽正美先生

現在、第二薬理大学院最後の年で、学会の報告の為に、毎晩遅くまで研究に励んでいらっしゃるようです。一人息子の正太郎君も、この四月から小学生です。

冬野誠三先生

九州大学医学部第2内科で腎グループに入って研究を続けておられます。「長崎に来た折りは是非ポート部の練習風景なども拝見したい。」とのことでした。

松本恵一良先生

国立大阪病院から宮島区の明生病院に移られたそうです。大腸ファイバーのエキスパートとして頑張っているそうです。部誌掲載のお名前を間違っていました失礼しました。

馬渡一雄先生

第2病理で現在同僚の丹羽先生らとラットの研究をなさっています。二人のお子さんがいらっしゃるそうです。

光藤一枝先生

現在、大村の国立長崎中央病院にいらっしゃいます。練習等の時によくつれて来ていらっしゃった愛犬のロンちゃんも元気である、とのことでした。

峰 雅宣先生

現在、諫早の健康保険諫早病院に長崎市内から通っていらっしゃることです。毎週火曜日には大学に顔を出している、とのことでした。

卒業生紹介

出口正巳先輩（ラ・サール高校卒）

最初の一年間は全学ポート部で頑張られた本場仕込み。初めてお逢いした時の、腕に包帯を巻いた痛々しい姿が強く印象に残っています。三年前にはキャプテンをされて、我々下級生を引っ張っています。力は見事なものでした。合宿の時は、それまでいつも一番遅くまで布団にしがみついていた出口さんが、率先して起きる姿に感嘆の目を私達は送ったものでした。又、常に謙虚な姿勢を忘れず、海の上でも、私達下級生の言葉にじっと耳を傾けてくれました。

私生活の面では、「ミスター浜口」と呼ばれ我々下級生をよく飲みで連れていかれたものです。卒業後は、整形外科の方面に進まれるそうです。

出口さんノ 七年間、御苦労様でした。

土居 浩先輩（愛光高校卒）

村上ゼミで出口さんと共に、勉学・遊びの両方に精を出すうちにいつの間にか、ボート部に引きずり込まれた人。

温和な性格と、その性格を示すような丸味を帯びた体格の土居さんが、オールを初めて手にしたのは、卒業試験の真最中の今年一月十六日の初漕ぎでした。初めは遠慮気味でしたが、慣れると、さっそうと漕ぎ始めたのには部員一同びっくり。隠れた逸材だったのではと思うと、西医体・九山大会に出場していただけなかつたのが残念です。これからも、ボート部のOBとして、良き御指導を承りたいと思います。

卒業後は、長大小児科入局予定とのこと。今後ともよろしくお願ひいたします。

漕艇回想

学 IV 小 倉 猛

大学に入学以来、早や六度目の春を迎えようとしているが、やはり、この五年間で貴重だと思つたのは、漕艇部という一つのクラブを中心とした中味の濃い人間関係をもてたということだ。大学では本当の友人関係は無理と世間では言うようであるが、良き先輩、同輩、後輩に恵まれたせいも、そういう意味では私は幸せ者であると思つている。

入学した年の春に、今の「雲仙」と「多良」が新艇として艇庫に並び、新入生だった我々は、先輩方の御苦労もその時は、あまり分らぬまま嬉しさのみで一生懸命漕いだことを覚えてゐる。やはり、無から有に導くにはそれ相応の御苦労があつたんだということをも身

に染みて感ずるようになったのは、学部が上がってからのことである。

戦績では、教1の時の大阪での西医体オープン部門で、当時、学4の朝戸さんにコックスをしていただいて、一年クルーで二位に入賞できたことは、好運だつたと思つている。ただ、練習自体は苦しかったのを覚えてゐるが、田川さんをはじめとするユニクな、かつ厳しい先輩がいたのだから当然ではあるけれども。（逆に今は懐かしく思うことのできる良き思い出である）

それ以後、あまりパツとせず、県の大会で二位、三位にはなつても優勝できず、九山、西医体でパツとしなかつたことは、大いに反省させられる点であつた。九山では、学Iのとき、初めて熊大対抗クルーに勝つことができたが、西医体では現在に至るまで熊大に対抗で勝つことができないのは、春から夏にかけての調整に難点があると思われる。今でも惜しまれるのは、学2の夏の唐津での西医体の対抗準決勝で八百近くまで二位でいながら最後、乱れて三位に甘んじたことである。初の決勝進出を目前にすることだから、尚更である。漕手自身もそうであるが、コックスの成松君の方が残念だつたのではと思う。

今まで、ほとんど定位置のように調整のポジションを漕がせてもらつたが、逆に僕が調整をしていたので他の三人の漕手の力をフルに出すことができなかつたのでは？と思うこともしばしばあつたことは事実である。しかし、結果も重要であるが、その過程での個人意見を出し合い、その中で自分の全力を出し尽す方が、より大事と思う。やはり、ボートは、メンタルな部分での通じ合いが必要だからである。去年の夏以降、少し低迷しているのは、このメンタル

な部分での触れ合いが少し足りないのではと思うのは僕の思い過ぎ
しだろうか。自分に甘えることなく、部員相互の向上につなげてほ
しいと思う。

今年の春の九州朝日は、体力の低下はあるものの現役クルーに負
けないような学4クルーが出来上がるものと思っっている。これが、
今からの楽しみである。現役クルーも、絶対我々には負けられないよ
うに頑張ってもらいたい。

最後に、今回の新艇購入とOB会発足のことであるが、五年前、
艇購入以来、海水での練習、遠征に伴う艇運搬などでの艇の傷みも
早く、この度の新艇購入に際し、今後の体制を整えたい為もあり、
念願のOB会発足までこぎつけることができたのも、OB諸氏の御
理解があつてのことと感謝している。それに応える為にも、今年
は好成績を収めたいということが今の部員一同の想いと思う。

「愚痴」

学 IV 小 村 三代治

ボート部に入学して、早や五年目も終ろうとしている。そして約
四年間に集約された一つ一つの試合を思い出すことができる。四月
に大学に入学して一ヶ月も満たぬのに、先輩から試合に出ると言わ
れて面喰つたものだ。漕ぎ方もわからず出た試合、ただガムシヤラ
に漕いだ。足で蹴るといふより腕こぎだった。三百メートル過ぎた
ら他のクルーは、はるか遠方であつた。悲惨なデビュー戦であつた。
この年（昭和四十九年）の西医体では、一年生クルーがオープン戦
で準優勝となつた。新入生クルーで、2位に入賞したクルーは後
にも先にもないのではないかと思う。あと20cm先にゴールに着いてい

たら優勝できたのに……残念である。

そして翌年の九山大会の対抗戦では、四分一秒というタイムであつ
た。それまでボート部のタイムは、四分十秒ぐらいがベストだつた
と思う。この時は、熊本三分四十八秒、山口三分五十七秒で、山口
とは八百メートルまで半艇身差であつた。スタート時に失敗して、
一艇身差をつけられていたのが悔まれる。昭和五〇年の六月の長崎
県民大会では、一般の部で第二位入賞と、これまたボート部はしま
つて以来の記録であつた。県の試合に出ても、医学部クルーは、お
荷物としてしか見られていなかっただけに、価値ある記録だつたと
思う。その日の打ち上げで、ピールのうまかつたこと、やはり試合
は勝たねばだめだとつくづく感じた。そしてこの年の西医体、当然
去年以上の成績を残そうと、部員はやる気満々であつた。
合宿も終りに近づいて、対抗クルーの整調が体調を崩し、メンバ
変更となつた。急造整調であつたために、その後の練習は、クルー
の漕ぎが咬み合わず、近づく試合に、ただ焦りを覚えたものだ。コ
ックスにさかんに注意され、どなられたのを思いだす。試合は対抗、
オープンとも準決勝止まりで、期待してくれた先輩方を落胆させる
結果になつた。記録的には、対抗、オープンとも三分五〇秒台であ
つたが、何か漕いでいても整調のピッチに合わせられずに一〇〇〇
メートル漕いだという感じがあつた。クルーに占める整調の比重は
ずしりと重かつた。そしてこの年の秋からぼつぼつシエルに取りく
みはじめた。春の九山からシエル戦も加わるといふことで、翌年か
らシエルに本格的に取りくみ始めた。春の九山では、対抗で熊本を
破り二位入賞と、また一つ九山の記録を塗りかえた。その後朝日レ
ガッタのシエル戦にそなえ、練習をしてきたが、試合の前々日に体

調を崩してダウンしてしまい、メンバー変更、皆に迷惑をかけたことが一番つらかった。後輩の皆さんも、こういう悪い見本はまねをしないで貰いたい。どちらかという失敗談になったが、やはり成績としていいものが残せぬ始末なのが残念です。後輩の皆さんに期待します。勝つというのをもう少し意識して貰いたい。ノルマで練習はしない。先輩からどなられてやるのではなく、率先してやる。ランニングでもクルーの一人が先頭になって走れば、同じクルーのものについてはいくだけのガッツを示して貰いたい。クルーは常に一緒だという気持ちを後輩の方も忘れないで下さい。

〃 五年間をふり返って 〃

学 IV 成 松 元 治

私達が漕艇部に入部した当時は水漏れのするナツクル艇二隻のみであった。海に出ると水をくみだしながらの練習であった。一ヶ月後に現在の雲仙・多良の二隻が購入され、練習らしきものが何んとかできるようになった。その後一年二年と経つうちに諸先輩方が卒業され、私達はクラブ活動に多大の協力を受け、活動は活発となり現在クラブ員も二十余名となり大所帯となった。五年間をふり返ると一年目大阪、二年目広島、三年目京都、四年目唐津、五年目金沢と津々浦々と遠征してきた。この西医体の遠征が私の楽しみの一つと思っていたのであったが、この遠征費にしても諸先輩方の寄付にたよつての活動であった。それに応えるためにも輝かしい成績をおさめようと努力してきたのであったが満足はいく成績を残せなかったのが残念である。しかし、この五年間のクラブ活動で、春夏の合宿・遠征・初漕ぎ・コンパ・部誌作成 etc の一つ一つが強い印象

として残っている。漕艇部に入って良き先輩・級友・後輩にめぐり会って想い出を残してきたことは、学生生活のうち一番の宝であると思つてゐる。先日、OB会設立、新艇購入云々についての話し合いを行つた。思えばこの会の発足案は、私が大学に入つて当初から計画されてきたことであつた。時代の流れは早いもので諸先輩方の下で責任といつた重みもなく活動していたと思つていたらいつのまにか自分たちが先頭となつて働いていかねばならない立場となつていたのである。当時は諸先輩方の指導の下に会則 etc の下書きを行つていて、実際空振り状態となり、その後たち消えの状態となつてしまつていたが、今回OB会発足、総会開催、新艇購入の仕事に従事してみると大変な仕事である。諸先輩方が漕艇部発足、クラブ員勧誘、新艇購入の件で東奔西走といつた苦労の上に現在の漕艇部が成り立っているのだが、その当時は現在我々が行つてゐる仕事に比べたら比較にならない程の苦労多きことだつたであろうと思われ。この努力を無駄にしないためにも、しっかりとしたOB会ができ、クラブ運営がスムーズになっていくことは我々現役部員の願ひであつた。入部した当時皆んなで考えてきていたことが今一つ一つ現実となりつつある。

オーイ、コックスさーん!!

学 IV 水 谷 明 正

ボートを始めて早や五年。最初、奇妙な七人の侍が海を求めてこのクラブに入つてきた。それぞれ思う所あつてだろうが、僕は入る瞬間ボートレースのスマートさとそのエネルギーな男臭さを垣間見たのである。

レースはわずか四分の勝負。数あるスポーツの中でこれほど短い時間の勝負は稀である。その四分に四人が全身全霊をこめてトライするのであり、この四人分の十六分をコックスが一手にひきうけるわけである。

コックスは元来目立たない存在であり、裏方さんのイメージを捨て難い。しかし、一旦乗艇すると主役になれる。脇役がいくらいても主役が欠けると、ボートレースという劇は成立しない。主役あつてこそその脇役なのである。その主役も、形式的な主役ではダメで実質的な主役にならなくてはいけない。従つて主役に選ばれたからには他より一層勉強しその劇を一步でも早く完成させるよう努力するのである。この主役の演技を脇役が力強く支えていつてこそ主役の演技に活気がみなぎり、ひいては全体の演技もうまくいくのである。

僕は人数の関係で数多くコックスを経験してきた。その度に言いようのない敗戦のくやしさをかみしめて来た。今思うに、自分の不勉強とコックスという立場に安閑としていたことが恥ずかしく思われる。将来のコックスさんよ、僕と同じ轍を踏まずしつかり頑張つてくれ。いいコックスが育つことがボート部の発展に繋がるんだから。最後に、いつまでも強い連帯感を持ち、長崎大学医学部ボート部ありといわれるよう頑張ろう。

海

学 III 前 原 洋 二

海というものは、イイものだ。ちよつと海から遠ざかっていると無性に海を見たくなる。だからと言って海にいつて何もするわけではなく、ただながめているだけでいいのだ。それだけで気持ちが落

ちつく。だいたいボート部に入部したのも海で練習するということに魅かれたのだ。私の郷里は鹿児島山の山おくなので海に接することが少ないので、海にあこがれていた。

しかし海というのは恐ろしいものでもある。一年目に、かたがみから子々川までレースのあと帰ったとき、途中で陽が落ち真暗になり、それに加えて波も高くなり、先輩の話では岩も出ていて座礁する可能性もあるとのことで恐怖でいっぱいであつた。子々川への方向も確かになかつた。その時は先輩がただしょうけんめいに漕げと言ひ、コックスは田中先生だつたと思うが声をはりあげ、私達をばげましてくれた事はいまでも忘れない。その時のことはたぶん一生忘れられないことの一つであらう。

ボートはコックスを信頼し、五人の気持ちがいっしょになつたら、少々のことではぐらつかないのである。

話は変な方向にきてしまつたけど、前キャプテンとしての反省私達が入部して以来初めて一クルーも準決勝にのこらなかつたのが最大の後悔である。今年、難波キャプテンを盛り上げ、昨年のことを胆に銘じ、前進していきたいものである。

ヨット

学 III 村 山 晋

先日、知人から共同オーナーであるヨットに乗らないかと誘われた。時は冬。冬の海は身が切られる程に冷たいことは、初漕ぎで何度も経験しているからあまり気も進まなかつたが、前にも一度断わつていたので(その時は雨が降つていたので)土曜日の午後一緒に乗ることになつた。それまでヨット等乗つた事がなかつたから好奇

心も半分あつたことも確かである。ヨットはクルーザーで子々川の「海の家」の前の前島に投錨されてあつたので「海の家」のボートを借りてヨットに向かった。「海の家」のおばさんの「ボート部がヨットに乗るんですか。裏切つたらだめよ」という冷やかしの言葉を背に受けながら。

その日は前日までの寒さが嘘のように冬の一日にしてはめずらしく、風もなく寒くもなかった。しかしヨットは風で走る乗り物であるから風が吹かない事にはどうしようもなかった。全くのお手上げであつた。それで我々は船上でウイスキーを飲みポテトチップを食べながら風の吹くのを待った。

日も暮れかかった頃、やつと風が吹き出した。さあ忙しくなつた。何しろ私はヨットには初めて乗つたので、ただ知人の言われるままにロープを引っ張つたり、弛めたりで仲々大変であつた。

その日は三時間程乗り、陸に上がったが、風が吹けば速く進むが、吹かなければ手の出しようがない——いわば「風まかせ」のヨットに比べ、風が吹こうが、雨が降ろうが、自分達がすべて頼りのボートが、やはり私には向いているのだと思つた。(でも、夏にレジャーとしてヨットに乗つたら楽しいでしょうね)

さて今年には西医体が大坂で開かれる。去年の成績は散々であつたから、是非今年には雪辱戦としたいものである。

今振り返れば

学 III 谷 川 宗 生

今振り返れば、僕はボート部に、どれほど貢献してきたのであるうか。今までやって来た練習は果して何だったのか。またボートは

自分にとつて何だったのかと考えます。しかし、心からボートを愛しボートに燃えて頑張つたことだけは確かです。この事実だけが、今の心のささえであり、僕がこうしてクラブに参加できるのもこのためです。教養の頃は、学IIIになつてはなばなく引退することを夢見ていましたが、今となつてはとても悲しいことで、そのためにも残された数ヶ月を大切にしたいと思っています。

漕手として活躍している諸君に一言。

コックスの苦勞とつらさを、皆が理解してほしい。ほかの部員がラニングしている時には、一人で艇の整備をし、また整理体操をしている時には、艇を洗い、リガーをふくという具合で、一緒に汗をかき、苦しさを分かち合えないということは、とても悲しいことなのです。(実際は、コックスは漕手の苦しさを考えてはいけないうことです)それでいて、夜一人で練習計画や、漕手の一人一人のことについて悩むことが多いのです。

漕げなくなつて初めてわかつたことですので、部員全員に理解してもらいたいと思います。

みんないいか、今年には頑張るぞ。日々前進をめざして。ともに優勝カップでビールを飲もうではないか!

部員の最も多い年

主将 学 III 難 波 裕 幸

今年には、ボート部創立以来初めて教Iから学四まで各学年に部員がいる年になる。もちろん人数的にも今までで一番多い年になるだろう。言ってみれば初めて本来のクラブらしい形体になつたのだ。

又、四月には新艇も購入することができる。これだけ部の活動が栄えんになったのだ。こんな時期に主将にされた事は大変幸運なことだと思ふし、やりがいがある。これも顧問の先生方並びに創設時から今日まで漕艇部OBとして卒業されていかれた先輩方の影ながらの暖かい御援助のおかげだと頭が下がる思いです。そうした先輩たちの後を受け継ぎ、現部員も各人ユニークな個性をもち、他のクラブには見られない独自のボート部カラーとでもいふべきものを作り出している。そのカラーとはウラの底抜けの明るさだろう。言いかえれば素晴らしいアホの集まりである。

そうした部員をひっぱっていくのは、難しくもあり楽しくもあるが、五人の学四の先輩から適切なアドバイスを受けたら、お互いに考え、言い合い、未来を夢見て、限りなく未知数の現部員の能力をひきだしていくのではないか。さらにこの素晴らしいボート部のカラーを強烈にしていこう。

部員諸君は、この一年苦しい時もあるだろう、悲しい時もあるだろう、しかし楽しい時もある。そして西医体に向かうのだ。

ボート合宿の歌

学 II 倉 富 彰 秀

合宿。この言葉を聞くだけで、気分が悪くなる。いや、気が引き締まる。それ程合宿は、ボートの上達、さらにクラブ内の結束を高め、精神力を鍛練する上で欠く事のできない大切なものである。コンパなどで必ず歌われるのは、琵琶湖周航の歌だが、合宿の歌もあつても良いのではないかという事で出来た歌がある。一昨年に

S君らによって作られたもの。名付けて、ボート部合宿の歌。

「月月火水木金」の節で

一、 朝だ夜明けだ 潮の息吹き

うんと吹込む 朝焼けのなか

胸に苦さの みなぎる誇り

海の男のボート合宿

※ 月月火水木金

二、 赤い太陽に 流れる汗を

拭いてにっこり ボートの手入れ

大村湾の 波波波に

※ (繰り返し)

三、 オール一筋に 火のような練磨

艇(ふね)は行く行く コックスは叫ぶ

行くぞ長崎 医学の艇(てい)だ

※ (繰り返し)

四、 どんとぶつかる 怒濤の海に

今日も漕ぐ漕ぐ 今宵の夢は

明日の試合の この腕だめし

※ (繰り返し)

太陽がくれた季節

学 II 山 近 史 郎

スタートの情報はいはいる

練習を無駄にすまい

頑張れ!!

君の頑張っている情報がはいはいる

ありがとう

落ちつけ! 自分よ! ベストを尽すのみだ

練習の成果を十分出そう

それだけだ

俺は勝つために、今までやってきたんだ

甲子園の球児の、あの泥まみれの雄姿にあこがれて

君が見えてきた

そこだ! そこだ! そこまでだ!

頑張れ!! 頼むぞ!

まかしとけ!

おまえの漕ぎは、決して無駄にはしない

クラブの雰囲気がいい?

甘っちょろいんだよ

練習は泥まみれ潮まみれ、死にもの狂いさ

漕ぐ! 漕ぐ!

前の漕者に近づくんだ

練習してきたんだ 暑くとも 眠くとも

これが最後だ

終ったら死んでもいいんだぞ!!

先輩が築いてきた このポート部の歴史を

今度は、俺たちが引き継ぐんだ

今度は、俺たちが歴史を作っていくんだ

すばらしい伝統を!!

先輩の熱意は、決して無駄にはしない

もつと蹴れるぞ!!

きつい でも頑張るんだ!!

皆の為に そして自分の為に

声援が聞こえる ありがとう

頑張らねば!

頼むぞ!! よっしゃ!!

クラブは楽しくやりたい?

あの汗臭さが 男のロマンさ

ヒーローになる時 それは今

快い疲労感 頭の中はからっぽだ

きつかった ベストだった 満足だ

何も言うことはない 言葉にできない

今しかできないことをやったんだ

やれたんだ!

ありがとう 自分よ!

さあ 応援だ

頑張れ！ 最後までぞ！

おまえも頑張つて 漕ぎ去つてゆく

顔を苦しみにゆがめて

ありがとう うれしさに顔がほころぶ

頑張れ！ 頑張れ！

ゴールだ！ ゴールだ！

俺たち全員のゴールだ

俺たちの青春の一ページのゴールだ

皆さん、くれぐれも怪我だけは注意しましょう。決して無理な練習をするな、と言っている訳ではありません。怪我をしない程度に無理をするのです。怪我をした時程悲しい時はありません。練習する皆の顔が、ものすごく美しく感じられ、うらやましさを感ずるのです。だから怪我だけに注意しましょうネ。

会 話

学 I 末 永 俊 郎

冬のある日、一人で子々川の艇庫をたずねた。人気がない合宿所の庭を、木枯しが吹きぬける。コートの際を立て薄暗い裸電球のスイッチを入れる。

真夏の太陽の下、若きボート部員のしたたる汗を受け、エネルギーのすべてを吸いつくしたシエル艇は、今何事もなかった様に、その均整のとれた艇体を休めている。艇底のキズに、リガールの塗装に、ちぎれたストラップに、青春の想いがさざみ込まれている。ラウン

ド・ポトムの名めらかな底に手をのせる。時の流れが身をつつむ。

「どうしたのかね。」「えっ？」

「君のことだよ。」「誰？」

「私だよ。今、君が手をのせているじゃないか。」「ここ」

「いやに元気がないじゃないか。」

「夏の元気はどうしたのかね。あれでなかなかやっていたじゃないか。」「でも……」

「全力でやってきたのだろう。皆も頑張っていたし、私はちゃんと見ていたよ。」「でも、試合の結果が……」

「いいじゃないか。去年は去年。今年こそより一層頑張れば良い。君にオリンピック日本代表を期待している訳ではない。ただ、君にもボートとは何か、青春とは何か、大学生活とは何か、それが少しでもわかってもらえればいいのだ。私は、ボート部員全員にその事をわかってもらうため、滋賀の天津で生まれ、子々川に来たのだと思っている。」

「何といつても、すべてに全力を傾けることだ。後になってあんなにすれば良かった、こうすれば良かったなどと悔いを残さなければいいのだ。その時その時のベストを尽す、これは大切な事だ。たまに過去をふり返る、それはなかなか良い事だ。同じ誤ちをくり返さない為にも。しかし、常に後ばかり見てはいけけない。前を見てある事に全力投球で立ち向う事は、若い君らがまずするべき事じゃないのかね。」「ええ、それはそうですね……。」

「今までのとおりでいいのだ。いや、今まで以上に努力すればいいのだ。」

「さあ、今からでも頑張つていこう。私は君を見つづけているよ」

「……」

「誰か来たようだ。それじゃ私は。一生懸命やるんだよ」「はあ」
どれくらい時間がたったのだろう。ふと気がつくと、肩には誰か
の手があつた。「オイ、何しとるんや。そろそろ走ろうぜ。ホラ」
そこには、山近と倉富が体操服姿で笑いながら立っていた。
夢を見ていたのだろうか。雲の切れ間からのぞく太陽は、あたた
かく僕らをつつんでいた。

「アツ。スマン、スマン。」
僕は体操服をとりに行くため、駆け出していた。

抽象なのだ

教 II 今 里 雅 之

事前に結果を恐れない事は、重要な事であると思う。結果を気にも止めない事には問題があるが、前もって結果を気にしすぎると、非常に精神状態が悪い。結局、人事を尽して天命を待つ事になるだろう。しかし、結果が好ましくなかった場合、ある事をしたいと思つているのだが、その事は、その結果を知る前に行動を起こしておかないと結局自分が損をするのである。

そこで、憶病風を吹かして、極悪の事態のみを考え、痛手を受けないようにと心の準備をし、イライラしているのは男ではなからう。男では、ここ一番で勝負をしなければならぬ。男にならなくては。以上のこの文章は、日記の一面を飾り、今の自分の精神状態が、いかにパーブリンと呼ぶべき姿をしているかを示すものである。

諏訪神社の鳩とガチヨウ

学 I 岡 田 代 吉

部誌というからには、クラブの事となるのだが、それはみんなが書いていると思うので今回は部外の事について書いてみよう。

ぼくの下宿の近くに諏訪神社がある。由緒あるこの御社には、本殿の左側の庭に人によく慣れたハトが、池にはガチヨウがいる。

一昨年友人と諏訪神社へ行き、群がつてくるハトに餌（かつばえびせん二十円）を与えている時、ふと、ある気晴らしの方法を思いついた。群がるハトの中にも強い者と弱い者がいて、強い者が優先的に餌をついばむのである。そこで、できるだけこのハトに餌を与えないようにしてからかうために、このハトの死角に餌を投げるのである。また、このハトに対して片方に餌を投げ、彼がそちらへ走ろうとした途端に逆の方にも投げるのだ。すると彼は、ただウロウロするばかりで餌にありつけずじまいに焦りが生じてくる。そして、次の餌は自分の所へ投げてくれないだろうかと、ぼく達の方を、頭を傾けて見る。あまりかわいそうなので手の平に餌を置き、直接与えようとする、このハトは近づこうか、否かと手の前をウロウロし始める。鳥類は理性より感情が発達した動物であるから、この時のハトの感情の起伏がおもしろい。客観的に見るとあまりいい事とは思われないが、試験中などには、いい気晴らしになる。

次に、池のガチヨウについても同様な気晴らしができる。
この池には白いガチヨウが数羽と黒いのが一羽いる。もちろん、この黒いのをのけものにして遊ぶのである。黒いのが中間に来た時、左の白に餌を投げ、黒が左へ動こうとした時、右の白にも餌を投げ

る。すると黒はただ右往左往するばかりで餌にはありつけず、ついにはおこつて池を泳いでいる亀の甲らをつつのであるが、これも見ていて鳥の気持ちわかるようでもしろい。

しかし、ついこの前、行った時には、ハトはあい変わらず群がって来たが、ガチヨウはというと、ほくらには見向きもせず池の排水口からの脱出を企てている最中であつた。

しかし白い羽をドロコにして脱出が成功したかに見えたのもつかの間、すぐ管理人のおじさんに見つかり、池の周りには猫や危険なものでいっぱいだぞ、と説得されてしぶしぶ池の中にもどされていた。考えてみると、こんな狭い所に閉じ込められて自分の意志を完全に抑制されてかわいそうな気がする。人間は自然のあり方にとここまで関与できるのかなあ、と哲学的な考えがちよつと頭に浮んだ。話は変わるが、みんなも諏訪神社に行かれたら、ただお参りするだけではなく、前述の気晴らしの方法をためしたりして、ハトやガチヨウと心と心のふれ合いをし、観光長崎を実感されてはいかがですか。

無題

学 I 中 崎 隆 行

去年一年は、僕にとって非常に勉強になった年であつた。

まず、クラブの友人というのは何であるかという事である。クラブの友人は、本当に心おきなく話し合える友でなければならぬ。仲が良いというのではなく、たとえ争いがあつても構わないから、裸と裸でぶつかり合うことが出来なければだめだと思ふ。相手に自分の本心を見せる事である。そこに、はじめて真の友情が生まれる

のだろう。真の友情なくして、ボートという競技で勝つことは出来ないだろう。

次に、僕は試合後によく反省会をする。ここで気をつけなければならぬのは、反省は終りでなく始まりである。という事である。ともすれば、試合後の反省が形式的になつてしまふが、そうではなく、個人個人が、負けた悔しさを、練習にぶつけ、次の試合では、必ず勝つてやるといふ闘志を見せる事が重要だと思ふ。

今年、新艇もはいる事だし、何としても皆で力を合わせ、勝つために頑張りたいと思ふ。

雑感

学 I 永 見 耕 一

ボート部に入つて、はや二年が過ぎようとしている。様々な事であつた二年間であつた。クラブに入つてない人よりは思い出は多いと思ふが、きつく、苦しい思い出の方が、楽なのより多い。この四月に学部が上がれば(恐らく無理と思ふが)主力メンバーになるとともに、自分たちでクラブを運営していかなくてはいけないだろう。今まで人数が最も多く、実行力に富んでいた学三の人たちが学四になつて完全に引退してしまふ。寂しい気がするけど時の推移だからしかたがない。あの先輩たちの作つてこられたクラブ以上のものを作ることはとても難しい。でも少しでもそれに近づき追いこせるようにしなくてはいけないだろう。新艇を買つて下さるOBの方々の誠意にお答えるためにも、九山や西医体ではよい成績をおさめた。そのためには日々の努力が必要である。頑張りたい。

無題

学 I 永山雄 二

僕がボート部に入部してから、早くも二年たちました。今まで自分なりにがんばってきたつもりですが、あまり良い成績は残せなかつたと思います。やはりまだまだ、自分自身に甘いところがあるように思います。練習の時には、自分に負けるまい、自分自身のことだをいじめぬこうと言いきかせながら、がんばってきたつもりですが、どこかに甘い気持ちがあつたのでしよう。この点がまず今後直していきたいと思うことの一つです。

また、練習というものは、ただノルマを果たし、時間をかけさえすればよいというものではありません。今自分が何のための何をやり、そしてあとは何をやるべきか、常に考えながら練習しなければならぬと思います。これも今後の課題の一つだと思ひます。

今年、新艇も購入されますし、みんなたいへん燃えているので、西医体で好成績を残せるようにがんばりたいと思ひます。

WE ARE NO.1の美しい響き

学 I 松尾圭 一

ボート競技というスポーツ。とにかく一定の距離をより速く漕ぎきればよいのである。最も単純なゲームかもしれない。現代のように複雑なかけひきの混沌とした時代には、はやらないスポーツかもしれない。野球やフットボールなどはテレビで見てもゲーム性、換言すると、かけひきや知恵比べがあつて楽しい。

ではボートは頭を使わないスポーツなのか。否、ボートほど頭を

使うスポーツはない。頭というのはきわめて抽象的な言葉だから、正しく言い換えると、つまり目を使い耳で平衡感覚をとり手と足で力を使える。五感のすべてを使い、脳を使う。我々が心と呼ぶ脳と運動中枢としての脳を使う。きわめて難しいスポーツである。だからこそ、やりがいのあるスポーツだと思う。

さらにボートの難しい点は、数字という絶対量に練習の成果を置き換えることが難しいという点にある。野球の場合、勝率5割、打率3割3分3厘、ゴルフなら50を切つたとか切らないとか。その数字はある程度絶対量としての意味がある。しかしボートは数字で測りきれない。一〇〇〇m 4分30秒。この数字には、常にあいまいさがつきまとう。潮の流れ、天候、風、あらゆるコンディションが大きく左右される。あてになるのはただ一つ。漕手とコックスの五人の心が一体になつて「今艇が進んでいる。いいぞ。いいぞ」この感じ。このインスピレーション、テレパシーみたいなもの。そして何よりもレースに勝てば数字で計れないあいまいさは絶対量となつて答えを出す。No.1という数字になつて。WE ARE NO.1。

WE ARE CHAMPION。ほくはこの美しい響きを経験したことがない。神様はそうたやすくこの美しい物を与えてくださらないだろう。前途には厳しく冷たく辛く苦しい練習が待っているのだ。ベストをつくそう。No.1をめざして。

無題

教 II 小林誠博

私がボート部に入つたのは、下宿先にボート部の先輩がいて、その人の差し金で、クラブ紹介の時に、まっさきに、旧キャプテンの

前原さんがやって来て、半ば強引に子々川につれていかれ、何がなんだかわからないまま、ボートを漕がされて以来、ずるずると過ごしてしまつたからです。

練習は四月から参加しましたが、そのころは、西医体、九山へ向けて、皆がんばっていたらしく、集まりぐあいも非常によくて、体力のない私は、ボート部の先輩達というのは、何とタフな体の持ち主なのであろうか、又、私はこれから彼らについてゆけるのだろうか、日夜、不安にさいなまれていました。

さて、何はともあれ、ボート部に入つたからには、試合に勝ちたいと思うのが当然でありまして、それなればこそ、苦しい練習をも辞せずにやってきたと思うのですが、県漕にも西医体にも勝利をおさめられなかつたというのは、非常に残念でありました。そこで、なぜ負けなかつたということを、ミーティング等でも話し合つたわけですが、はつきり言つて、ボート部に入つてわずか十ヶ月あまりで、ボートに対する知識の少ない私にとつて、今までの練習でいいのか又は、勝つためにはどうすればよいか等は、まだわかりません。(主観では、何とでもいえますが)しかし、今までの自分の練習に対する取り組み方には、反省し改めねばならない事が多数ある一例えば、自分を甘やかしていた等——ので、今年は、やはり氣力を持つて練習に取り組みたいと思つています。

ボート部との関係について

教 II 日 高 真

どうして私がボート部にはいつたかは定かでない。全く考えることなくなんとなくはいつた。私は、ボート部が、このようにきつい

部だとは思わなかつた。そのうちやめるだろうと思つていた時期もあったが、現在に至つている。やめなかつた所をみれば、何か引きつけられるものがあるのだろう。練習中はきつくてたまらないが、練習が終るとそんな事はすっかり忘れて充実感が残る。正に、喉元過ぎれば熱さ忘れるという言葉があてはまるようだ。しかし、人間にはそういう緩急のリズムが必要なのだろう。テスト前の重苦しい気持ちがテストが終われば晴れるが、そのように精神が変化するように、体も鍛えたりだらけたりするのは良い事ではないかと思う。思つている事をうまく表現できないで、何だか変な文章になつてしまつたようだ。

こんな訳で、高校の頃は国語の成績が極端に悪く、国語の配点の少ない長崎の医学部を受けた次第である。今年の共通一次からは、地元長崎勢が増えそうであるが、それはおもしろくない。やはり北は稚内から南は沖繩までいた方がおもしろくていいと思う。

話がそれてしまつたが、今になつてみれば、私はボート部にはいい事を後悔していない。海の男はいいと思う。

ところで、ボートというスポーツは非常に金がかかる。私はボート部の財政難を救う為に全国自治宝くじを買つた。三千万円当てて一割の三百万円をボート部に寄付する予定であつたが、四百円しか当らなかつた。予定のとおり一割の四十円を寄付しようとしたら、マネージャーの山近さんに、「役に立たん」と断わられてしまつた。私はとにかく勝ちたい。ボートの苦しさはこれまで味わつて来たので、今度こそボートの喜びを味わいたい。ボートの喜びとはやはりレースで勝つことに他ならない。

一年を振り返って

教 II 平野友久

早いもので、もう一年も過ぎてしまいました。入学した時、大学では運動クラブを選ばねばと考へ、あれでもない、これでもないと考えたところへ、ポート部が目につきました。元来、海が好きだったので、これだと思ひ入部したまではよかったです。高校では文化部にいた上、浪人時代に運動はしなかったため、四月五月の陸トレは死ぬ思いでした。走ってはピリで、サーキットも息をゼエゼエさせる始末。体力がないのは解っていたので、何か一つでも強くなりたいと思つて、家に帰つて腹筋を一〇〇回ずつ始めました。すぐに腹筋は割れて、みるみる強くなっていきました。長大祭の後の県漕は、デビュー戦でしたが惨々でした。初めてだから仕様がなとは思いますが、スポーツで負けることのくやしさを久しぶりに感じた試合でした。

六月、教養生だけの合宿でしたが、合宿の恐しさを垣間みただけでした。大学の階段の一段一段が *m* に思えたものでした。七月合宿、西医体は、家庭の都合で参加できませんでしたが、照りつける太陽をみる度クラブを思いだしました。後期試験が終つた十月、交通遺児の募金で練習に参加できなかったことを、みんなにわびる次第です。十一月の宮城杯も、そのために惨々でした。この時は、もつと練習しておけば、もつと練習しておけばと思ひました。

一月の初漕ぎの時は、醜態をさらしてしまいました。しかし、あの冷やのトップ酒は効きました。家に帰るまでは保つたのですが、それからが大変でした。夜中まで唸っていました。今年の目標、も

うちよびつと酒に強くなろう。

又今年も、下級生も入ってくるから、恥ずかしくない練習をしようと思ひます。

想い出

教 II 松吉正隆

四月のサークル紹介のとき、ポート部に入部するなど考えてもいなかった。そこで高校時代の同級生、山近、倉富に会つて、まあ見学だけでもいいからと言うので、そのつもりで見学に行ったのが運のつき、そのまま一年間ポート部に所属している。四月五月の練習、中学以来のクラブ活動なので最初はきつい一言、第一峠まで走るのが大変であった。六月の教養生だけの通い合宿、朝五時起床、第二峠までの往復約六kmのランニング、少し乗艇、それから学校へ、ちようど自動車学校に行つていたので、手にマメを5個も10個もつくてハンドルも握れない状態で運転していた。生まれて初めての合宿であつたが、我ながらよくやれたと思う。七月の十日間の夏合宿は、西医体前でシビアな練習、まっ昼間の練習の時には、太陽の光を遮るものがないので、雲を追いかけその下でひと休み、でも六月の合宿も七月の合宿もいい思い出である。ああ、それと十二月のある土曜日、五人で練習。いつもの練習だと変化がないと、大手町に行つて階段を昇り、そのまま山越え、三原町を通りぬけ、目ざすは金比羅山の頂上、延々三時間にわたるクロスカントリー、これがポート部なのだろうか、でもその後のピールのうまかつたこと。

練習の事ばかり書いたが、他には、一年生四人で飲みに行つて色々な事を話したり、テスト前には、共に勉強したり、楽しく過ごし

て来たこの一年であった。まああと二、三年はボート部に所属して自らを鍛え、時には(?)みんなとバカさわぎをして学生生活を過ごしていきたいと思う。今年の西医体は、去年のようなブザマな負け方はしたくないと思います。みんな頑張りましょう。

長崎医学専門学校、長崎医科大学、 長崎大学医学部における漕艇部（端艇部）の歩み

ボートレースの歴史をたどると、一七一五年、ロンドンテムズ河で行なわれたレースが最初とされているが、日本でも開国まもない明治二年に横浜港で英国海軍水兵によるカッターレースが行なわれており、明治十六年には既に対抗レースが始まっております。

長崎に最初に漕艇用のボートが持ち込まれた時期はわかりませんが、長崎医専（長崎医大の前身）においては、少なくとも大正七年に端艇部が存在していた事は確かです。大正七年の長崎医専の卒業アルバムには、漕手六名、舵手一名、サイドリガー、スライディングシートの艇で練習している写真が出ております。この頃、医専の艇庫は長崎高商、長崎中学と共に中の島（現在長崎駅貨物引込み線付近）にあつて、長崎高商との間には対校戦が行なわれていました。なお、この対校戦は昭和十七・八年頃まで続き、戦後一時復活したとのことです。また、水上運動会が催されクラス対抗レースが行なわれたり、クラブとは関係なしに学生が放課後に漕ぎに行くという時代が太平洋戦争が始まる頃まで続いていました。他に立神には、三菱スカリングクラブがあり、長崎における漕艇の歴史の黄金時代

でもありました。

昭和の初めには、寄付によって「雲仙」「霧島」「阿蘇」の三艇が角オール、角クラッチ、スライディングシートのフィックス型艇として建造されたそうです。また中の島の艇庫は昭和十一年（この年という確証はありません）頃に時津に移されました。この新艇庫については長崎大学の国有財産台帳によると、

長崎大学艇庫 二三六頁

注：昭和三十年頃の記載なので医科大学から長崎大学に移管されている。

長崎県西彼杵郡時津町浜田郷亀本百九十ノ二及び四

(1) 土地

用途 艇庫敷地

数量 百六十三坪

沿革 昭和二十一年四月一日、長崎県西彼杵郡時津村長横山

政美氏と長崎医科大艇庫として、無償貸借契約す。

(2) 建物

用途 艇庫（四十五坪、木造、亜鉛引波型屋根、鉄板葺）

沿革 昭和十一年六月二十三日竣工

時津村より寄付受ける。

昭和二十六年三月一日取り壊し

昭和二十六年三月二十五日竣工

昭和四十年七月二十九日用途廃止

用途 脱衣室（六坪）

沿革 昭和十一年六月二十三日竣工

昭和四十年七月二十九日用途廃止

その他の付属設備、昭和三十二年十一月十五日に国有財産としてヨットを購入したことが記載されています。

第二次世界大戦、長崎医科大学の漕艇活動はやや途絶えていたようですが、昭和二十三年に

木谷郁博氏（昭和三十年卒、大浦町で医院開業）

星野行弘氏（昭和三十年卒、浪平町で医院開業）

大須賀浩氏（昭和三十年卒、弁天町で医院開業）

石橋盟士氏（昭和三十年卒、中園町で医院開業）（順不同）

等により長崎医科大学付属高等学校漕艇部が創立され、滋賀県琵琶湖で行なわれたインターハイ（フィックス艇による）に出場するなどのクラブ活動が行なわれております。

その後、長崎大学医学部に進学した木谷氏等は再び漕艇部を結成し、昭和初めに建造した三艇のうち、比較的程度の良かった「霧島」を修理して（昭和二十五年頃）主に長崎港で練習を続けていました。また、同氏の努力により昭和二十六年三月には新艇庫も完成していますが、昭和二十七年になると、さすがの「霧島」も使用不能となり、また資金的にも恵まれず、医学部漕艇部の活動は停止されたままになっていました。

この頃、ヨット部は薬学部が中心となってクラブ活動が開始され現在に至るまで活動が続いています。その後の子々川での臨海研修所設立の詳細は不明ですが、台帳によると

長崎大学臨海研修所

長崎県西彼杵郡時津町子々川郷太田九八一ノ一

(1)土地

数量 一四二五平方米（四三〇坪）

代金 百四十三万円

昭和四十二年三月十四日財団法人輔人会より購入

注：大学の予算の関係からか、昭和四十年頃に先行所得してもらったものと思われる。また、昭和四十年〜四十二年にわたっては輔人会との間に貸借関係が結ばれてゐる。

(2)建物

①住宅建

木造 アルミ瓦葺、平屋四十五坪

沿革 昭和四十年十月二十日新築

昭和四十年十月二十六日竣工二百六十八万円

昭和五十年三月二十六日浴室改修

②雑屋建用途（艇庫）

鉄骨造 波型スレート葺

平家建 一部中二階造

建五十一坪 延六十二坪

③雑屋建用途（カッター庫、学生控室）

鉄筋コンクリート及び木造二階建

昭和四十三年三月十一日新築四百三十五万三千四百円

この研修所が作られた当時は、ヨット部のみが活動を行っており、漕艇部の活動は停止していたためヨット部艇庫のみが建築されたものと思われず。

以上の様な経過により、子々川におけるクラブ活動は、ヨット部とカッター部が中心となって行なわれていたわけです。

ところで、昭和四十四年長崎国体が開催され琴海町形上コースで

行なわれた漕艇競技で長崎県が総合一位、女子一位の好成績をおさめました。この国体の際ナックルフォア(KF)数艇が長崎県漕艇協会により購入された為、不要になった三艇が長崎大学、或いは水産学部に寄贈されました。これらの三艇をもとに、長崎大学水産学部の漕艇同好会が結成され、子々川において練習を始めました。この頃の子々川には艇庫がなく、露天におかれていたため十分に管理ができず、昭和四十七年には使用可能な艇は一艇のみだったそうです。

しかしながら、昭和四十六年になり藤井氏(S50経済卒、現在松下電器勤務)らの加入により、長崎大学全学組織の漕艇部が成立しました。これに後れること一年、顧問教官に村上文也先生(当時、熱研内科助教授、現在五島町で医院開業)を迎えて、丹羽正美氏(S50卒、現在長大医第二薬理学教室)、朝戸須江夫氏(同、現在東京女子医大消化器センター)等が中心となって、総勢十五名をもって長崎大学医学部漕艇部が復活しました。

当時、医学部漕艇部の使用できる艇はなかつたのであるが、昭和四十七年五月八日、県漕艇協会理事長、山口光次氏により、協会所有艇の中からナックルフォア一艇の使用許可を頂き、ようやく漕艇部としての練習を始めることができました。同時に木谷郁博氏と石橋盟士氏によりオール四本の寄贈を受け、同年夏合宿までは、琴海町形上コースにて練習し、以後は今日に至るまで子々川で練習を行っております。尚、この県漕艇協会所有の艇は昭和五十年頃より使用不能となり、昭和五十四年一月、部員の手により県漕艇協会に返還されました。

医学部漕艇部成立当時には、医学部漕艇部員は長崎大学漕艇部に

属しており、合同練習を時に行ったり、吉田恒夫氏(日本漕艇協会公式審判員、長崎市役所勤務)に共に指導を受けたりしている状態が昭和四十九年頃まで続きました。

ところで昭和四十七年当時、子々川の臨海研修所には、ナックルフォア型艇が四艇あつたわけですが、専用の艇庫もなく露天に置かれていたため十分な管理ができませんでした。また、全国の大学漕艇の趨勢としてナックルフォア型からシエルフォア型(ナックルフォアと同じく五人乗りであるが、長さ十二米余りあるが、外板の厚さは数ミリ、重量六十キロというデリケートなもの)或いはシエルエイト型(前者と同様の作りで九人乗り)へ移行が行なわれていた時期であつたため、それらの購入の糸口のためにも艇庫の建築を部員全員が望んでいました。その後、全学漕艇部、医学部漕艇部が共同で大学に要望した結果、子々川研修所ヨット艇庫脇にボート格納庫が大学の手で建築されました。

台帳(仮設物の項)によると

注：仮設物とはその扱いは国有財産に準ずるものであるが、あくまで「仮設」のものである。

雑屋建

用途 ボート格納庫

木造平屋建 スレート葺

昭和四十八年三月十五日新築

五十六平米 三十五万円

このボート格納庫には、最大限シエルフォア、ナックルフォア計九艇、シングルスカル二艇が格納しうるものではあるが、格納庫内は吹きさらしとなっており、潮風も当り、艇の格納には不適當なも

のです。

この艇庫建築を契機に長年の運動が実つて昭和四十九年三月一日及び十二月二十五日に長崎大学によつてシエルフォア二艇（あめんぼり・みずすまし）が購入された長崎大学漕艇部の活動も活発になりました。また医学部漕艇部においても長崎大学医学部漕艇部新艇購入委員会（委員長、宮城重信氏当時長崎県医師会長）が結成され同窓会を中心に寄付を仰ぎ、百七十万円余が集められ、昭和四十九年五月十四日にナツクルフォア一艇、シエルフォア一艇（多良及び雲仙）オール八本その他付属品が長崎大学医学部に寄付されました。この時の収支決算

収入総額 百七十万五千五百円

支出

シエルフォア 八十九万六千円

ナツクルフォア 六十九万六千円

事務費 十一万三千五百円

計 百七十万五千五百円

なお、三百九十二名の方から寄付をいただきました。

これらの艇の整備に伴い、両漕艇部とも目覚ましく活動してきたのであるが、何分にも、シエルフォア艇型はデリケートな艇であるので両漕艇部間で艇を共用することはほとんどなく、ナツクルフォア型を共用するといった状態です。

同年九月、漕艇部顧問教官、村上文也先生退官後、眼科学教授高久功先生を顧問に迎え、昭和五十二年三月には、医療法人春回会によりモーターボート（十四フィート二十五馬力）の寄付をうけ、練習伴走、救難用に用いています。

現在のところ、長崎大学漕艇部部員十名、医学部漕艇部部員二十名です。医学部漕艇部において使用できる艇は、ナツクルフォア型艇一艇、シエルフォア型一艇の計二艇しかなく能率的な練習がでない状況にあります。また、シエルフォア型艇も五年を経過して次第に老化が見られ、試合には使用不能となりつつあるのが現状です。そのため昭和五十四年三月にシエルフォア型一艇を医学部漕艇部OB会で購入して、医学部に寄付していただく予定です。

後記

この歴史に関しては、詳細が不明な点や誤った点があると存じます。お気付の点はお知らせ下さい。

文責 学Ⅲ 井上 健一郎

昭和53年度会計報告

	摘 要	金 額
(収入)	部員負担金 小計	1,067,000
	(内分け)	
	九山大会部員負担金	5,000×17 85,000
	西医体 "	7,000×21 147,000
	夏合宿 "	15,000×21 315,000
	春合宿 "	20,000×14 280,000
	部費	1,000×20×12ヶ月 240,000
	寄付金	571,500
	ダンパ・バザーによる収入	87,000
	部誌広告代 52年度	115,000
	" 53年度	85,000
	前年度繰越金	-32,000
	小 計	1,893,500
(支出)	西医体遠征費	402,000
	九山大会 "	110,000
	県漕 "	3,000
	宮城杯 "	4,000
	夏合宿 53年	280,000
	春合宿 54年	240,000
	西医体エントリー費	21,000
	九山大会 "	18,000
	西医体借艇料	50,000
	ライトエース維持費	144,000
	艇修理費	98,000
	艇部品代	89,000
	ライトエース車検費	157,000
	部誌製作費 52年度	80,000
	" 53年度	80,000
	事務費	19,000
	諸雑費	12,500
	小 計	1,807,500
	残 金 (来年度への繰越金)	86,000

新艇購入について

かねてからの念願でありました新艇（シエルフオア型）につきましては、OB会の方々の御寄付によって購入していただくことになりましたので御報告いたします。

発注は昭和五十四年一月、納品は同三月末日、支払いは同三月及び同十二月の二分割払いの予定です。

艇の仕様○シエルフオア標準仕様（艇型・オレンジ型）

一隻 百四十万円

○ステンレスリガー

四本 九万二千元

○レール前後可動式

四組 八千元

○オール標準仕様（セミマコン）

四本 十一万六千元

○ストレッツチャー（レール可動式）

四組 一万二千元

○送料 五万円

小計 百六十七万八千元

造艇所割引 三万八千元

合計金 百六十四万円

部員一同、心から御礼を申し上げます。

長崎大学全学漕艇部と医学部漕艇部の

子々川艇庫使用に関する同意書

昭和五十四年二月二十六日

内容

一、医学部漕艇部の新艇（昭和五十四年三月に入る予定）の艇庫使用を承認する。

二、子々川艇庫は全学漕艇部、医学部漕艇部の両者が使用する。

三、艇庫を縦半分ずつ使う。ただし、ナツクル艇は上段のみに置く。

四、シングルスカルは医学部漕艇部が保管する。

五、新艇購入に伴ない、中段の改造を希望する。

六、艇の出し入れの不自由さをなくすため道具箱の位置を変える。

七、艇の出し入れには万全の注意を払うのは当然であるが、万一、他艇を破損した時には必ず連絡をする。

八、艇庫の使用について問題が起これば、両者が話し合いをして解決する。

九、オール立では両部が使用する。この場合、半分ずつの原則を守る。

十、冬期には下段中段にシエルフォアを一艇ずつ、上段にナックルフオア一艇を置き、夏期でもこの約束は守る。

代表全学漕艇部主将 小山 秀文

主務 橋本 郁男

以上の文章が、今回新艇購入に際し、全学と再三の協議の決果、取りかわされた同意書の写しです。

昭和五十三年度 大会成績

△宮城杯▽

試合日：昭和53年4月2日

場所：大村市東浦

クルー：

Aクルー

C 今里 雅之(教2)
S 山近 史郎(学1)
3 中崎 隆行(教2)
2 谷川 宗生(学2)
B 永山 雄三(教1)

Bクルー

岡田 代吉(教2)
永見 耕一(教2)
末永 俊郎(教2)
倉富 彰秀(学1)
松尾 圭一(教2)

成績：A Bクルーとも予選落ち

連絡の不手際により、琴海町形上湾に行ってしまった。あわてて大村に向うが、到着時には予選が始まっていた。何とか出艇させていただくが、準備体操も十分にできずの乗艇となってしまった。

両クルーとも、スタートは良かったのだが、中盤のコンスタンが伸びず、そのままゴールという結果に終わってしまった。

レース場の確認を怠った事が最も大きな敗因であるが、部員の士気が鈍った事については大いに反省させられる。試合直前には必ずベストコンディションにある為の努力を惜しんではならない。

△九山大会▽

試合日：昭和53年5月14日

場所：福岡市多々良川河口 九大艇庫前

クルー：

Aクルー(対抗)

C 谷川 宗生(学2)
S 山近 史郎(学1)
3 中崎 隆行(教2)
2 井上 健一郎(学3)
B 末永 俊郎(教2)

Bクルー

今里 雅之(教2)
倉富 彰秀(学1)
村山 晋(学2)
永山 雄二(教2)
難波 裕幸(学2)

Cクルー

- C 小村 三代治 (学3)
- S 永見 耕一 (教2)
- 3 小倉 猛 (学3)
- 2 岡田 代吉 (教2)
- B 松尾 圭一 (教2)

成績：Aクルー準優勝、Bクルー4位、Cクルー3位

前日、朝8時に長大中部講堂前集合。自家用車5台に分乗して博多を目指す。この時初めて九州縦貫道に入る。到着して、即練習。多々良川では、高速道路架橋工事を横に見ながら漕ぎまくる。「オイ、頑張れよ！」と工事のおじさんたちの声。よし、明日は頑張るぞ。

いよいよ試合当日。オープン予選は熊大B・C・Dと福大及び我がB・Cの六クルーで行われた。

まず予選1組のBクルー登場。七百米の短距離決戦とばかりに張り切ってスタート地点へ。スタート直後は一線に並んでいたが、百米付近で熊大Bが飛び出す。五百米付近での差は1艇身。頑張れ、もう少し。でも、そのままでも惜しくも決勝進出成らず。残念。

予選3組のCクルーは、小柄ながら老巧小倉選手の見事なリードで、熊大Dをかわして決勝進出。いけるぞ!!という手応えあり。

さあ、対抗の予選1組。Aクルーは福大と当る。スタート直後に福大が飛び出す。百米過ぎで既に1艇身差。三百米ですかさずスタートを入れるコックスの谷川選手。伸びてきた!! 一漕ぎ一漕ぎで

差がどんどん小さくなっていく。並んでゴールです。すごい競い合いに、皆ぐったりの様子。結局、キャンパス差で、かろうじて決勝進出。若さで勝った試合でした。

オープン決勝。我がCクルーは四百米あたりからスタートしてきた熊大Bクルーをかわし切れずに3位でゴールイン。皆、くやしさを隠し切れない様子でした。

そして対抗決勝。予選で熊大Aを見事敗った山口大と当る。(熊大は予選でリガーが壊れて不本意でした) Aクルーはスタートがばらばらで、大きく艇が曲がった。その間、山口大との差は1艇身。

ペースの狂った我がAクルーは、差を縮める間もなくゴール。残念ながら2位に甘んじてしまいました。それでも、初めての盾を頂きくやしさを反面、皆の顔はほころんでいたようです。

今回の試合では、スタートダッシュの重要性を特に強く感じた。初めに飛び出すと、心理的にも随分余裕をもって漕ぎ、中盤のコンスタントの伸びも違ってくる。この点を今後の反省材料にしたいと思う。

ところで、その夜は全員で博多の夜を楽しみました。

12月
 11月
 10月
 9月
 8月
 7月
 6月
 5月
 4月
 3月
 2月
 1月
 12月
 11月
 10月
 9月
 8月
 7月
 6月
 5月
 4月
 3月
 2月
 1月

Eleven P.M.
 Show
 04:17pm
 4:18pm
 4:19pm
 4:20pm
 4:21pm
 4:22pm
 4:23pm
 4:24pm
 4:25pm
 4:26pm
 4:27pm
 4:28pm
 4:29pm
 4:30pm
 4:31pm
 4:32pm
 4:33pm
 4:34pm
 4:35pm
 4:36pm
 4:37pm
 4:38pm
 4:39pm
 4:40pm
 4:41pm
 4:42pm
 4:43pm
 4:44pm
 4:45pm
 4:46pm
 4:47pm
 4:48pm
 4:49pm
 4:50pm
 4:51pm
 4:52pm
 4:53pm
 4:54pm
 4:55pm
 4:56pm
 4:57pm
 4:58pm
 4:59pm
 5:00pm

対抗予選

対抗決勝	(山口大学医学部	2'	21"	
	(熊本大学医学部 A	2'	45"	
	(長崎大学医学部 A	2'	36"	
	(福岡大学医学部 A	2'	37"	
	(山口大学医学部	2'	22"	優勝
	(長崎大学医学部 A	2'	27"	準優勝
3位決定戦	(福岡大学医学部 A	2'	34"	3
	(熊本大学医学部 A	2'	36"	4
オープン戦予戦	(熊本大学 B	2'	38"	
	(長崎大学 B	2'	42"	
	(熊本大学 C	2'	55"	
	(福岡大学 B	3'	10"	
	(熊本大学 D	3'	05"	
	(長崎大学 C	2'	53"	
4位決定戦	(九州大学	3'	07"	
	(長崎大学 B	2'	03"	4
	(福岡大学 B	2'	40"	
	(熊本大学 D	2'	44"	
決勝戦	(熊本大学 B	2'	51"	2
	(熊本大学 C	2'	42"	優勝
	(長崎大学 C	2'	53"	3

〈県漕〉

試合日：昭和53年6月5日

場所：琴海町形上湾コース

クルー：

Aクルー

C 山近史郎(学1)
S 小倉猛(学3)
3 井上健一郎(学3)
2 小村三治(学3)
B 難波裕幸(学2)

Bクルー

前原洋二(学2)
倉富彰秀(学1)
末永俊郎(学2)
村山晋(学2)
成松元治(学3)

Cクルー

松尾圭一(教2)
S 永見耕一(教2)
3 中崎隆行(教2)
2 永山雄二(教2)
B 今里雅之(教2)

Dクルー

岡田代吉(教2)
水谷明正(学3)
松吉正隆(教1)
小林誠博(教1)
日高真(教1)

成績：Bクルー4位、Aクルー準決落ちC・Dクルー予選落ち

予選A組では、やはり園漕会が強い。スタートから他のクルーを寄せ付けない。我がCクルーはスタート直後、ローロックがはずれてしまい、審判艇に申し出たが、試合続行。3人で漕いでやっとうる。審議の決果、予選D組に入れてもらおう事となりました。

予選B組では、Bクルーは園漕会B、佐工専Cをおさえ1位。

予選C組でも、Aクルーが佐工専B、漕友会をおさえ1位。

Cクルーの雪辱のかかった予選D組。五百米地点まで佐工専Eを捕えていたCクルーも、後半の追込みがきかず3位。1年生中心のDクルーは今回がデビュー戦でした。

準決勝E組。スタートのミスで遅れたAクルーは、前半にスパートを入れ、他艇に並びます。七百米付近でスパートを入れた佐工専Cが、園漕会Aと差のついた3艇の中から飛び出た。すかさずAクルーもスパート。しかし、差は縮まらずそのままゴール。やはりスタミナ不足か？

準決勝F組では我がBクルーと佐工専A・Bとが激しい競り合いを演じました。スタートで佐工専Dがおくれ、他3艇はダンゴになつたまま五百米通過。七百五十米で長大Bクルーがスパート。つづいて佐工専A。ややおくれて佐工専C。そのままゴールかと思われましたが、ジリジリと出てくる佐工専Aに九百米で捕えられ、再度、スパートを入れたが、差の縮まらぬままゴール。一応、決勝進出です。十分な休憩の後、決勝戦。まず、スタートで飛び出した園漕会Aは、強いコンスタントで他を大きく引き離します。他の3艇は、まともやダンゴ。六百米付近ですると佐工専Aが出てきました。八百五十米で佐工専Cのスパート。すかさずBクルー、スパート。九百米では再び佐工専Cと並びましたが、後が続かず、結局4位に甘んじてしまいました。

この試合では、スパートのかけ方、後半の掛け引きが問題となつた。絶体的体力のことも考慮せねばならないが、強くそして長いコンスタントで充分な体勢をとり、最後の二百米で競り勝つ力を養わねばならない。八百米後で順位の逆転が数多くあつた事が悔まれる。

予選	$\textcircled{A} = \begin{pmatrix} \text{長大C} & 5' 48'' \\ \text{佐工専D} & 5' 10'' \\ \text{園漕会A} & 4' 26'' \end{pmatrix}$	$\textcircled{B} = \begin{pmatrix} \text{長大B} & 4' 49'' \\ \text{園漕会B} & 4' 52'' \\ \text{佐工専C} & 4' 51'' \end{pmatrix}$
	$\textcircled{C} = \begin{pmatrix} \text{長大A} & 4' 44'' \\ \text{佐工専B} & 4' 46'' \\ \text{漕友会} & 4' 49'' \end{pmatrix}$	$\textcircled{D} = \begin{pmatrix} \text{長大D} & 4' 56'' \\ \text{佐工専A} & 4' 31'' \\ \text{佐工専E} & 4' 32'' \\ \text{長大C} & 4' 37'' \end{pmatrix}$
準決	$\textcircled{E} = \begin{pmatrix} \text{佐工専C} & 4' 37'' \\ \text{園漕会A} & 4' 22'' \\ \text{長大A} & 4' 41'' \\ \text{佐工専E} & 4' 48'' \end{pmatrix}$	$\textcircled{F} = \begin{pmatrix} \text{佐工専D} & 4' 42'' \\ \text{長大B} & 4' 28'' \\ \text{佐工専B} & 4' 35'' \\ \text{佐工専A} & 4' 25'' \end{pmatrix}$
決勝	$\begin{pmatrix} \text{佐工専C} & 4' 22'' \\ \text{園漕会A} & 4' 07'' \\ \text{長大B} & 4' 23'' \\ \text{佐工専A} & 4' 18'' \end{pmatrix}$	<p>3 優勝 4 2</p>

〈西医体〉

試合日：昭和53年7月25日・26日

場所：石川県漕艇競技場日本海コース

クルー：

Aクルー (対校シエルフオア) Bクルー

- | | | |
|---|-------------|------------|
| C | 小倉 猛 (学3) | 水谷 明正 (学3) |
| S | 山近 史郎 (学1) | 倉富 彰秀 (学1) |
| 3 | 中崎 隆行 (教2) | 村山 晋 (学2) |
| 2 | 井上 健一郎 (学3) | 永山 雄二 (教2) |
| B | 末永 俊郎 (教2) | 難波 裕幸 (学2) |

Cクルー

- | | |
|---|-------------|
| C | 小村 三代治 (学3) |
| S | 永見 耕一 (教2) |
| 3 | 松吉 正隆 (教1) |
| 2 | 小林 誠博 (教1) |
| B | 今里 雅之 (教1) |

Dクルー

- | | |
|---|------------|
| C | 前原 洋二 (学2) |
| S | 岡田 代吉 (教2) |
| 3 | 日高 真 (教1) |
| 2 | 成松 元治 (学3) |
| B | 松尾 圭一 (教2) |

Eクルー

- | | |
|---|-------------|
| C | 成松 元治 (学3) |
| S | 小倉 猛 (学3) |
| 3 | 小村 三代治 (学3) |
| 2 | 前原 洋二 (学2) |
| B | 水谷 明正 (学3) |

成績：Aクルー予選敗退、BCDクルー準々決勝進出

Eクルー予選敗退

試合展望

古都の香り漂う金沢で行なわれた西医体。我々は西医体参加校中で最も遠い長崎からはるばる乗り込んでゆく。小倉く神戸間のフェリーで一泊の旅程だ。小倉で小林君の両親や末永君の両親からのお菓子、飲料水の差し入れがあった。こういった心づかいが、ピリピリした雰囲気をやわらげてくれて、本当にありがたい。差し入れを飲み食いしながら、フェリーの中では例によって歌合戦、女の子たちとランプと各人が思い思いにくつろぐ。

翌日、神戸に着き、電車で金沢へ。金沢では卯辰山にある金沢ヘルセンターで投宿。市全体を見下すことができ、他の大学もすべてそこに宿泊していた。水族館・動物園・ゲームセンターがあり、まるで合宿後の慰安会に来たような感じがしたが、皆、この調子ではいけないとミーティングをして気を引き締めた。

翌日は練習日。バスで試合場へ向かう。このバスの中でもリラックスするため皆で歌合戦。楽しかった。試合コースは川で波も風もなく絶好のコンディションだ。ブイは10m間隔に並んでいて、これならコックスも楽だろう。各クルー練習をしたが、どうもピンとくるものがない。旅疲れの為か。早く寝て明日は頑張ろう。

第一日目。空は晴れわたりすばらしいボート日よりだ。何ともいえぬ緊張感を胸に開会式に臨む。こんな時は他の大学がいやに強そうに見えるものだが、そんな事はない。

Eクルーが長大勢をかざつての初陣。相手は京大A、熊大A、鳥

大Eといった強豪相手だが、こちらも学3ばかりのベテラン勢だ。頑張ってくれるだろうと期待する。スタートでとび出した。さすがだ。五百mまでトップを維持したが、その後他のクルーに次々と抜かれ、結局4位。

2番手としてDクルーが出る。広大B、岡大A、岡大Cと対戦。小粒のクルーだが、5年間連続漕手として出場の成松さんが引き締める。広大B、岡大Cとせり合ったが、最終的には負けて準決勝進出ならず。貧血気味で、皆青白い顔をして帰ってくる。敗復待ち。

いよいよ対抗シエルフオア予選だ。京大、府立医大強豪2校が相手である。千五百mをどのような配分で漕ぐかが鍵だ。京大をピツタリマークする作戦である。スタート。まあまあだ。3クルー並んで百m通過。長大Aが遅れた。七百mでは京大、府立、長大の順だ。まだいける頑張れ。千mを過ぎる。頑張れ。しかしそのままゴール。次は、BクルーCクルーと鳥大Bの二はい上がり。骨肉相食む事になり少しがつくり。2位3位を長大で占め、同胞同士の戦いはBクルーに単配。Bクルーは準々決勝。Cクルーは敗復へ。

午後からの敗者復活戦。第⑩試合で阪大Aと大接戦の末ゴール手前25mで相手のミスに乗じて長大Dが逆転。準々決勝進出。

続く第⑨試合でも長大Cが見事トップでゴールイン。準々決勝への進出を決めた。

しかし対抗シエルの敗復第⑤試合では金沢医科大学には大差をつけたものの鳥大にわずか一艇身及ばず決勝進出ならず。対抗シエルの敗退に一同がつくり。

一夜明けた26日、対抗シエルは敗れたものなんとか勝ち残ろうと燃えるBCDクルーのメンメン。しかし、夏合宿の努力も空しく

続けて敗退。準決勝進出の壁は厚かったのである。

対抗シエルフオア

組合せ(※シード校)

予選

① — 熊本大学※
滋賀医科大学
鳥取大学

② — 京都府立医科大学※
和歌山県立医科大学
長崎大学
京都大学

③ — 岡山大学※
金沢医科大学
広島大学

敗復

④ — B 4 和医大
C 2 広大
A 3 滋医大

	1,500m	ゴール	1,000m	ラップ
熊本大学※	5' 37"	45	3' 43"	0
滋賀医科大学	6' 14"	10	4' 04"	4
鳥取大学	5' 39"	02	3' 44"	7
京都府立医科大学※	5' 49"	50	3' 48"	3
和歌山県立医科大学	6' 22"	89	4' 09"	8
長崎大学	6' 04"	08	3' 57"	3
京都大学	5' 54"	75	3' 52"	8
岡山大学※	5' 44"	56	3' 46"	8
金沢医科大学	7' 03"	96	4' 38"	3
広島大学	6' 14"	15	4' 06"	1
B 4 和医大	6' 42"	12	4' 23"	5
C 2 広大	6' 12"	68	4' 03"	7
A 3 滋医大	6' 25"	54	4' 10"	1

⑤	C 3	金医大	7' 09"	76		4' 42"	1	
		A 3	鳥大	6' 00"	05		3' 53"	8
		B 3	長大	6' 31"	21		4' 12"	8

準決勝

⑥	B 2	京府医大	5' 58"	32		3' 53"	5	
		A 1	熊大	5' 44"	54		3' 46"	5
		D 1	鳥大	5' 49"	07		3' 45"	7

⑦	A 2	京大	5' 56"	90		3' 55"	3	
		E 1	岡大	5' 40"	07		3' 41"	6
		B 1	広大	6' 0"	48		3' 59"	41

決勝

	F 2	鳥大	6' 02"	05	2	3' 54"	9	
		G 1	岡大	5' 58"	59	優勝	3' 53"	6
		F 1	熊大	6' 03"	64	3	3' 57"	2
		G 2	京大	6' 11"	05	4	4' 04"	3

オープンナツクル (抜粋)

予選

⑧	京大 A	4' 14"	2	
		熊大 A	4' 7"	2
		長大 E	4' 28"	2
		鳥大 A	4' 11"	4

⑨	岡大 C	4' 16"	2	
		長大 D	4' 37"	0
		岡大 A	4' 14"	1
		広大 B	4' 27"	7

⑩	長大 C	4' 43"	2	
		鳥大 B	4' 25"	0
		長大 B	4' 30"	4

敗復

⑪	滋医 A	4' 32"	6	
		阪大 A	4' 36"	5
		阪大 B	4' 36"	3
		長大 D	4' 34"	1

⑫	京大 A	4' 56"	2
		長大 C	4' 27"

準々決勝

⑤	┌	熊大 A	4' 06"	4	⑩	┐	広大 C	4' 20"	9
		長大 C	4' 16"	2			鳥大 A	4' 16"	6
		滋医 A	4' 21"	8			長大 D	4' 32"	2

⑥	┌	長大 B	4' 21"	3
		岡大 C	4' 16"	1
		鳥大 B	4' 40"	0
		熊大 C	4' 17"	5

決敗

┌	岡大 C	4' 20"	4	3
	岡大 A	4' 17"	5	2
	岡大 B	4' 14"	5	優勝
	鳥大 A	4' 27"	6	4

出場クルー 22クルー

予選 6、敗復 3、準々決勝 5 準決 2 試合

△官城杯▽

試合日：昭和 53 年 11 月 3 日
 場所：大村市東浦
 クルー：

A クルー					B クルー				
B	2	3	S	C	B	2	3	S	C
難	末	中	倉	谷	村	小	松	永	永
波	永	崎	富	川	山	林	吉	見	山
裕	俊	隆	彰	宗	誠	正	耕	雄	二
幸	郎	行	秀	生	博	隆	一	二	二
(学 2)	(教 2)	(教 2)	(学 1)	(学 2)	(学 2)	(教 1)	(教 2)	(教 2)	(教 2)

成績：A B C クルーで 4、5、6 位

C クルー				
B	2	3	S	C
松	日	平	岡	前
尾	高	野	田	原
圭	真	友	代	洋
(教 2)	(教 1)	(教 1)	(教 2)	(学 2)

この試合も前回の官城杯同様本位な結果でした。予選では園漕会 A、A クルー、C クルーでこの順。次も漕友会、園漕会 B、B クルーの順。2 はい上がりで、決勝は、園漕会 A、漕友会、園漕会 B A クルーの順でもしろくも何ともなく、我々の練習不足が如実に表われた成績でした。お恥しい限りです。

お昼は、今里君の家であるドライブインMで、食事をいただきました。ありがとうございます。この場を借りてお礼を申し上げます。

長崎大学医学部漕艇部 OB会発足にあたって

医学部漕艇部では、毎年、卒業生やOBの方々に御助言や御寄付を頂いたり、他方面にわたり御世話になっておりますが、寄付金を頂くにあたってOBの方々より、もっと確立したシステムを作ったかどうかという御忠告をいただきました。この事は、四年程前より部の懸案でもありましたが、此の度、OB会発足に伴いどうにか一歩前進することができました。

漕艇部の現状では、一番問題になるのが資金ですが、部の運営にあたって大体三通りに分けられます。

- (1) 艇および付属備品の購入費、維持費
- (2) 西医体・九山医大体育大会・九州朝日レガッタ等の遠征費
- (3) 大学より練習所の子々川（距離約15km）までの交通費、オール運搬の部車の購入維持費、その他事務費

昭和52年度（S52・4～S53・3）を例にとりますと（部員20名）

- (1) が 24万9千720円（艇の維持費のみ）
- (2) が 万8千円（試合は西医体……唐津、九山……熊本、九州朝日……北九州市）
- (3) が 35万4千円

以上で、支出は約160万円ですが、収入としては

○ 先生方からの御寄付……46万円
○ 部員の負担……94万円

（ダンスパーティー、バザー等）

○ 前年度繰越金……17万円
という内訳で、3万円程の赤字となっております。

現在は、寄付金は主に夏の西医体遠征費に活用させていただいております。しかし、現況を維持するのに精一杯では、耐用年数のある艇を使用する漕艇部の将来的見地を考えると、どうしても新艇購入がネックになります。この為に、計画性をもった艇購入をめざし、毎年、一定額を積立ててそれにあてるという目的でOB会が設立されました。

現在、所有艇はシエル艇、ナックル艇それぞれ一艇ずつですが、どちらも五年前、長大医学部を卒業された先生方の御好意で購入されたものです。特にシエル艇の場合、試合用の寿命は約三年といわれ、過酷な条件（海水での使用）での五年は、艇の傷みは相当なものとなりました。そこで、新艇購入に際し、前回のように広く諸先生方に御無理をお願いするわけにもいかず、また、これから先、同じように艇購入の場合、行き詰まることを考えられますので、ここにOB会設立が具体化されました。

OB会第一回総会は三月二十四日に開催されることになりましたが、その時の模様は、後日、御報告したいと思います。また、同時に、詳細につきましても、御連絡したいと思います。

長崎大学医学部漕艇部関係者名簿

(アルファベット順)

氏名	住所	〒	電話番号	勤務先	卒業年次
青木 義勇	長崎市西山町1-50	850	(21)1874	長崎大学医学部名誉教授	S 6年
阿部 義治	" 光町18-14	852	(61)5774	開業	S 15
石橋 盟士	" 中園町22-17	852	(45)6181	開業	S 30
大須賀 治	" 弁天町17	852	(61)3576	開業	S 30
片伯部 貢	" 本原3	852	(44)3043	開業	
片峰 大助	" 船大工町2-15	850	(22)0689	開業	S 14
木谷 郁博	" 大浦町8-16	850	(22)2964	開業	S 30
鈴谷 悦堂	" 緑ヶ丘1341	852	(46)2052	開業	S 19
清水 武	静岡県藤原郡藤原町細江3721-1	421-04	05482 (2)2131	藤原総合病院	S 30
城谷 勝明	長崎市諏訪町6-23	850	(22)6831	開業	S 20
高木 聡一郎	" 今博多町37	850	(22)2812	開業	S 20

高久 功	長崎市本尾町4-15	852	(44)4087	長大眼科学教授	東北大
田川 段一郎	" 白鳥町7-20	852	(44)0966	開業	S 7年
内藤 芳篤	" 中川町30-2	850	(23)4569	長大第2解剖教授	
星野 行弘	" 浪之平町37	850	(22)8702	開業	S 30
宮城 重信	" 築町3-1	850	(23)2494	開業	S 14
村上文也	" 平野町1-25	852	(47)5132	開業	S 20
村田 豊六	" 平野町22-21	852	(44)2460	開業	S 14
山口 光次	" 昭和町882	852	(44)5272	琴海町教育委員 長崎県漕艇協会理事長	
山口 邦夫	" 葉山町286-30	852	(56)8664	開業	S 14
吉田 恒雄	" 矢の平2-19	850	(25)4979	長崎市役所	
青木 勇	神奈川県鎌倉市梶原1293の28	247	0467 (45)8155		明治大
岡本 英雄	長崎県島原市湊道町7024	855	09576 (2)2452	開業	S 7

長崎大学医学部漕艇部OB名簿

(アイウエオ順)

氏名	卒業年次	教室	勤務先・勤務先住所	現住所	帰省先	〒	電話番号
朝戸 須江夫	S 49年	東京女子 医大消化器 センター	1. 東京女子医大消化器センター 新宿区谷河田町 2. 千葉県八千代市台西8-12-1-11	(5月から)	160 276	03(353)8111 0474(83)9020	
石川 治	S 51	岡大 2外	1. 高知県立中央病院 高知市桜井町2-7 2. 高知市二葉町15-2 二葉マンション403		780 780	0888(82)1211 0888(84)0291	
内田 隆 寿	S 49	長大 1外	1. 山口県立中央病院 山口県防府市八王子2-8-8 2. 山口県防府市八王子2-24-48		747 747	0835(22)1900	
川口 昭 男	S 51	長大 1外	1. 長大附属病院 長崎市坂本町7 2. 長崎市中園町15-15		852 852	0958(47)2111 0958(47)5529	
神田 源 太	S 51	長大 産婦人科	1. 五島中央病院 福江市木場町450 2. 南松浦郡福江市木場町472, 五島中央病院公舎1号		853 853	09597(2)2398	
瀬戸 信 二	S 49	長大 3内	1. 長大附属病院 長崎市坂本町7 2. 長崎市浜口町12-16		852 852	0958(47)2111 0958(45)9139	

氏名	卒業年次	教室	1. 勤務先・勤務先住所	2. 現住所	3. 帰省先	〒	電話番号
早田 篤	S 49年	長大小児科	1. 国立小児病院アールギー科 世田谷区太子堂 2. 世田谷区太子堂3-35-31			154 154	
田川 泰	S 49	長大1外	1. 国立嬉野病院 佐賀県藤津郡嬉野町 2. 佐賀県藤津郡嬉野町大字下宿丙	医師公舎		843-03 843-03	09544(3)1120
田中 精一	S 51	東京女子 医大消化器 センター	1. 東京女子医大消化器センター 新宿区谷河田町 2. 新宿区南榎町31	岩川アパート内		160 160	03(353)8111
堤 健二	S 51	長大外科	1. 山口県立中央病院 山口県防府市八王子 2. 山口県防府市八王子28-48			747 747	0835(22)1900 0835(22)8860
出口 正巳	S 54	長大整形	1. 北九州市門司区中20-11-7 2. 北九州市門司区中20-11-7 3. 北九州市門司区中20-11-7			800	093(381)4624
土井 治	S 54	長大小児科	1. 愛媛県宇和島市本町追手1-2-8 2. 愛媛県宇和島市本町追手1-2-8 3. 愛媛県宇和島市本町追手1-2-8			798	089964(2)1346
富海 五郎	S 49	愛媛大 精神科	1. 松山精神病院 2. 松山市内に移る予定 3. 下関市山ノ田中央町			750	
長西 靖	S 49	長大耳鼻科	1. 広島鉄道病院 2. 広島市東日島13-27			730	0822(61)2251 0822(28)9568

氏名	卒業年次	教室	1. 勤務先・勤務先住所	2. 現住所	3. 帰省先	〒	電話番号
中野文耕	S 49年	長大 2外	1. 慈恵會根病院 北九州市小倉南区大字沼49 2. 北九州市小倉南区大字沼953-2	下田ビル305号		802 802	093(471)2881 093(472)9100
丹羽正美	S 49	長大 2薬理	1. 長崎大学第2薬理学教室 長崎市坂本町7 2. 長崎県西彼杵郡長与町高田郷1613-4			852 859-06	0958(47)2111 09588(3)5871
野崎公敏	S 49		1. 2.				
冬野誠三	S 47	九大 2内	1. 九州大学医学部第2内科 福岡市東区馬出3-1-1 2. 福岡市西区室見1-2-9			812 812 814	092(641)1151 092(821)3178
松本恵一良	S 48		1. 明生病院 大阪市都島区東野田2-4-8 2. 大阪府高石市東羽衣4-5-4			534 592	06(353)3121 0722(62)5073
馬渡一雄	S 49	長大 第2病理	1. 長崎大学第2病理教室 長崎市坂本町7 2. 長崎市大手町407-24			852 852	0958(47)2111 0958(48)1194
光藤一枝	S 49	国立長崎 中央病院 小児科	1. 国立長崎中央病院 大村市上久原 2. 大村市上久原郷1001	国立長崎中央病院官舎A-1		856 856	09575(2)3121 09575(3)8884
峰雅宣	S 48	長大 1内	1. 健康保険諫早病院 諫早市永昌東208 2. 長崎市柳谷町4-13			854 852	09572(2)1380 0958(44)7031

氏名	卒業年次	教室	1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先	干	電話番号
吉本雅昭	S 47年	長大 小児科	1. 長大附属病院 長崎市坂本町7 2. 長崎市本河内町817	852	0958(47)2111 0958(25)3363

長崎大学医学部現役部員名簿

学 生	氏 名	出身高校	1. 現 住 所	2. 帰 省 先	〒	電 話 番 号
学 4	井 上 健一郎	長崎北	1. 長崎市岩屋町511 2. 同 上		852	(56)2711
"	小 倉 猛	函館ラ・サール	1. 長崎市本尾町1-33 辻方 2. 青森県東津軽郡今別町大字表月44		852 030-16	(47)9284 (6)2355
"	小 村 三代治	都 坡 西	1. 長崎県西彼杵郡長与町吉無田郷464-15 泰方 2. 鹿児島県曾於郡財部町南俣11211-3		859-06 899-41	09588 (33)1258 098672 — 8540
"	成 松 元 治	佐 賀 北	1. 長崎市中園町16-7 柴田方 2. 佐賀市長瀬町6-24		852 840	(44)0420 09522 (2)6844
"	水 谷 明 正	佐 世 保 北	1. 長崎市白鳥町7-20 田川方 2. 鳥取県八頭郡八東町徳丸1098		852 680-06	(44)0966 085884 — 2252
学 3	前 原 洋 二	大 口	1. 長崎市坂本町11-14 2. 鹿児島県薩摩郡薩摩町永野2554-1		852 895-23	(48)4582 099658 — 0633
"	村 山 晋	三 重	1. 長崎市油木町257 高比良アパート 2. 三重県伊勢市勢田町917-63		852 516	(47)2755 (25)3722
"	谷 川 宗 生	長崎北	1. 長崎県西彼杵郡長与町高田郷2273-4 2. 同 上		859-06	(57)0043
"	難 波 裕 幸	小 田 原	1. 長崎市泉町260 山田方 2. 神奈川県足柄下郡箱根町大平台395		852 250-04	(45)2811 (2)2563

学 生	氏 名	出身高校	1. 現 住 所	2. 帰 省 先	〒	電 話 番 号
学 2	² 倉 富 彰 秀	修 猷 館	1. 長崎市江平町217-3 2. 佐賀県神埼郡神埼町大学の1495-1	中山坊	852 842-01	(44)0364 (2)3800
"	山 近 史 郎	"	1. 長崎市横尾町1480-8 2. 同 上		852	(51)4360
学 1	³ 末 永 俊 郎	門 司	1. 長崎市岩川町10-13 2. 北九州市門司区鳴竹1-14-16	可児方	852 801	(48)1710 (321)2453
"	今 里 雅 之	大 村	1. 長崎市辻町562 2. 大村市杭出津郷697	山本アパートB棟	852 856	09575 (3)1253
"	⁴ 岡 田 代 吉	大 村	1. 長崎市立山町930 2. 長崎県東彼杵郡東彼杵町千綿宿1067	笹島方	850 859-39	(22)5376 (7)0020
"	⁴ 中 崎 隆 行	豊 津	1. 長崎市平和町9-13 2. 福岡県築上郡椎田町椎田	水田ビル31号	852 829-03	(47)8615 (6)0325
"	⁴ 永 見 耕 一	山 口	1. 長崎市高尾町15-4 2. 山口県吉敷郡小郡町山手下	永田方	852 754	(44)2041 (2)2462
"	⁶ 永 山 雄 二	佐 世 保 北	1. 長崎市清水町9-18 2. 佐世保市須田尾町22-23	白水荘16号	852 857	(47)2828 (31)4093
"	⁷ 松 尾 圭 一	大 村	1. 長崎市浜平町313 2. 大村市本町2丁目458	佐藤方	850 856	(24)2941 (3)2028
教 2	小 林 誠 博	小 倉	1. 長崎市高尾町15-4 2. 北九州市小倉北区日明1丁目13-8	永田方	852 803	(44)2041 (571)5909

学 生	氏 名	出身高校	1. 現 住 所	2. 帰 省 先	〒	電 話 番 号
教 2	日 高 真	鶴 丸	1. 長崎市本尾町338 2. 鹿児島市紫原4-40-14	末吉方	852 890	(44)6568 (51)5288
"	平 野 友 久	長 崎 南	1. 長崎市西坂町3-14 2. 同 上		850	(22)6333
"	松 吉 正 隆	修 猷 館	1. 長崎市昭和町177 2. 福岡市西区原7-20-7	松尾荘	852 814	092 (801)3871

トピックス

四月二十二日には自治会館でダンスパーティー。まだ新学期が始まったばかりで、かわいらしい新入女子学生でいっぱい。皆さん、楽しそうに踊り、我々主催者側は、遊んだ上にちゃっかり黒字。

五月二十二日に、活水短大の映画研究会の美女連と稲佐山へ合同ハイキング。自己紹介から始まって、ゲーム、お弁当（美味かった）と、日頃のきつい練習の事など、きれいさっぱり忘れて楽しい一日を過ごしました。中にはうまく彼女ができた部員もいたようです。（ウラヤマシー）

例年どおり、長大祭ではバザーを出しました。活水映研の方々が多数手つだいに来て、盛況でした。また、的になっている人間の顔に水でぬらしたスポンジを投げる、スポンジ投げは好評でした。的になった教養生諸君、御苦勞様。しかし、井勘定の為か、二日間の収入は、僅か五千円とのことでした。たった一つの悪点は、酒酔いの上バイクで転倒し、シヨックの余り三日間寝こんだパーが一人いた事です。

九月十七日は、ボート部恒例、スナック「勝馬」主催のソフトボール大会がありました。まず一回戦。敗色濃厚で迎えた最終回の裏、出ましたノ山近君のサヨナラスリラン!!この一打で、快調に勝ち進み、結局、準優勝。昨年に続き、二度目の準優勝です。来年こそ是非優勝を!! えっ、ボートの試合の事ですよ。

十一月には外語短大と合同コンパです。勇志十六名が赤迫の鳥忠に集まりました。前後の見境もなく、障子を破った者もありました。ダウンして松吉君に背負われて帰った女の子もありました。翌日の朝、頭の痛かった事。二日酔いはいやですネ。

一月十五日は初漕ぎの日。卒業試験中の出口先輩、土居先輩もいらっやいました。身も凍るような寒風の下、三十分ばかり漕いでからの善哉のうまかったこと。

今年は五名の成人を迎え、例年通り、コップで冷や酒です。またたく間にあいてしまった一升ビン2本。全く、たくましく、ほほえましい限りでした。

最近テレビゲームがちよつとしたブームを呼んでいる。流行の先端を行く我が長崎大学医学部ボート部でも、ご多分にもれずスपीンベーターが大はやりである。バックに流れるベース音がプレイヤーの緊張をそそのかの如くスピードを増してゆく。ミサイルの発射音は、二十一世紀の世界へと僕らを誘う。インベーターの爆発音は、日頃うつつ積んだストレスを解消する。ミサイル砲が破壊される時、プレイヤーは敗者の無念さをひしひしと胸に感じるが、その次の刹那、その無念さはなにくそという負けん気に変え、左手はポケットの中で手探りを始める。重かったポケットは次第に重量を減らし、やがて、プレイヤーは千円札両替機の前に歩み寄る。

二十一世紀の不思議な魅力を持ったこのゲームは、金を食う。ブームにのりすぎて、インスタントラーメンの食事が続かない様に用心しよう。とは言え、やはりおもしろい。

ゲームにはコツという物が付き物で、長いことやっているとコツがわかって、わかりすぎると面白くなくなる。何事も、過ぎたるは及ばざるがごとし、である。皆さんも既に御存じだろうが、そのコツを二、三紹介すると

一、右端から一列ずつ攻撃せよ。

一、UFOを落して点を稼げ。ちなみに二十三発目とその後のお十
五発目が三百点という高得点になる。

一、インベーダーの進行方向に逃げながら打て。インベーダーを
追うのは禁物である。

さて、我がボート部の最高得点保持者は、意外にも教養二年の日
高真氏で、九千五百点であった。が、つい先日、学部三年の谷川宗
生氏が、遂に一万点の壁を破ったという。

これでまた、ブームが加熱気味になりそうだが、部員の学業成績
は、ハテ、いかななものになるのだろうか。

編集後記

四月上旬に刊行する予定でしたが、原稿集めの遅れ等、不手際が
目立った為に、至らない点が数多く見られ、部誌編集にあたって不
躰な電話や手紙等、先輩諸氏に大変御迷惑をおかけした事について
深くお詫びいたします。

今年OB会設立や新艇購入等、我々部員は昨年以上に発憤し、
部活動に励みたいと思います。なお、お気付きの点などございまし
たら、遠慮なくお申し出下さい。よりよい部誌とする為に役立てた
いと思っております。

最後に、部誌の印刷をお願いした松尾君の御両親と、最終日にな

って夜明けまで協力して下さった部員の皆様に感謝いたします。
この部誌により、先輩方との交流や部員一同の意志疎通の一助と
なれば幸いです。

編集責任者 末 永 俊 郎

本誌刊行にあたり御援助いただいた会社は次のとおりです。

(有) 東七太郎商店

伊東薬品株式会社

大塚製薬株式会社

三共株式会社

大黒南海堂株式会社

武田薬品工業株式会社

田辺製薬株式会社

中外製薬株式会社

(株) 重陽堂

藤村薬品株式会社

(株) 宮崎温仙堂商店

心からお礼申し上げます。

- Read and think about rowing when out of boat.
- Never think one can ever stop improving.
- One must concentrate on the job in hand.
- Knees down and seat firm.
- Combination of hands, body, and slide.
- Be delicate of touch, remember the boat
is "She."
- Move naturally and swing straight.
- Don't hurry, hurrying is fatal!
- Compress on the stretcher!
- Make the boat jump forward in its stride.
- Spring from the stretcher and row the
blade in
- Shooting the slide first.
- Don't hurry the finish.
- Finish the stroke out.
- Taking rest.
- Don't lose the timing.
- Be calm during the forward swing.
- Never strain to get forward.
- Always keeps thinking ahead of the work.
- No cups are given for stylishness.
- Let him learn by sight, and then by feeling.
- Let him coach himself.

1870

Jan 1st

Feb 1st

Mar 1st

Apr 1st

May 1st

Jun 1st

Jul 1st

Aug 1st

Sep 1st

Oct 1st

Nov 1st

Dec 1st

1871

Jan 1st

Feb 1st

Mar 1st

Apr 1st

May 1st

Jun 1st

Jul 1st

Aug 1st

Sep 1st

Oct 1st

Nov 1st

Dec 1st

打撲・ねんざ・筋肉痛に……

三共シップ[®]

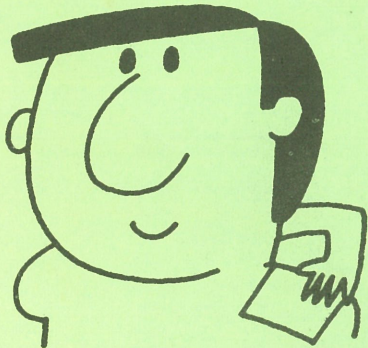
(13.6cm × 10cm) 6枚入
12枚入

三共シップ、爽やか10ポイント。

三共シップは、特長ある水性基剤を用いた、清潔で爽やかな“ポップ剤”シップ薬とはり薬の、それぞれの良さが上手にいかされています。救急箱に常備して、お役だてください。

① お肌にピッタリ

肩、腰、ヒザ…どんなところにも、よく密着します。

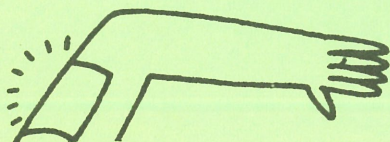


② しっとりとした肌ざわり

貼って1日たっても、ごわごわしたりしません。

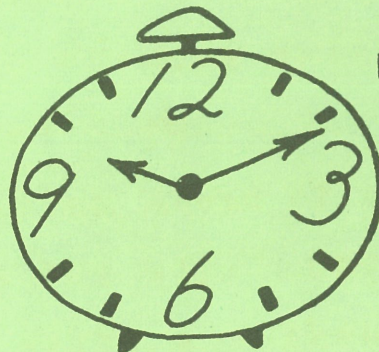
③ べとつき皆無

不快な“べとつき”がなく、じつに爽快です。



④ なが〜い効きめ

使用は、ふつう1日1回でじゅうぶんです。



⑤ はがす時に痛くない

ご使用后、スムーズにお肌からはがせます

⑥ お肌を汚さない

はがした後に、お肌にあとが残りません。

⑦ 爽やかな使用感

すっ〜とした感触。爽やかに痛みをやわらげます。

⑧ ひんやり気持ちいい

適度な冷感があり、とくに熱をともなった痛みにも効果的。

⑨ お肌への刺激が少ない

カブレ・カユミの心配はほとんどありません。



⑩ 薬剤面はまっ白、清潔

しかも、独特の芳香をもっています。